

[illegible]

専門	必修	データサイエンスⅡ	0021	履修単位	1	<table><tr><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			2																		萩原 信吾	
		2																										
専門	必修	商学概論Ⅰ	0029	履修単位	1	<table><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	2																				田嶋 雄太	
2																												
専門	必修	商学概論Ⅱ	0030	履修単位	1	<table><tr><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			2																		田嶋 雄太	
		2																										
専門	選択	情報基礎Ⅰ	0031	履修単位	1	<table><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	2																				萩原 信吾	
2																												
専門	選択	情報基礎Ⅱ	0032	履修単位	1	<table><tr><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			2																		萩原 信吾	
		2																										

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	保健
科目基礎情報						
科目番号	0001		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	現代保健体育「大修館書店」					
担当教員	林 直人					
到達目標						
①健康に関する知識や状況を全般的に理解できる ②健康の必要性を認識し、実践する態度を身につける ③体力やスポーツパフォーマンスを高めるためのトレーニング方法を理解できる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	健康に関する知識を全般的に理解し、健康を身近な問題として積極的に捉えることができる。		健康に関する知識を全般的に理解し、健康を身近な問題として捉えることができる。		健康に関する知識を全般的に理解し、健康を身近な問題として捉えることができない。	
評価項目2	生涯にわたる健康づくりの必要性を認識し、健康的な生活を営むための方法や手段を正しく理解できる。		生涯にわたる健康づくりの必要性を認識し、健康的な生活を営むための方法や手段を理解できる。		生涯にわたる健康づくりの必要性を認識し、健康的な生活を営むための方法や手段を理解できない。	
評価項目3	体力やスポーツパフォーマンスを高めるためのトレーニング方法を正しく理解できる。		体力やスポーツパフォーマンスを高めるためのトレーニング方法を理解できる。		体力やスポーツパフォーマンスを高めるためのトレーニング方法を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
ディプロマポリシー 2 ディプロマポリシー 3						
教育方法等						
概要	現代の健康問題（生活習慣病、メンタルヘルス、職業病など）に関する発生要因について理解を深め、それぞれのライフステージに合った健康づくりに関する取り組みを教養として学習する。					
授業の進め方・方法	基本的にはテキストを用いて講義形式で実施するが、授業内容によってはグループディスカッションやグループワーク等のアクティブラーニングも行う。学生の理解度に応じて、授業計画を変更することがある。					
注意点	現代保健体育テキスト、現代保健体育ノートは毎回使用する。また、現代保健体育ノートは定期試験ごとに教員がチェックをする。 授業中における許可の無い「私語」、「携帯電話等の使用」は認めない。 定評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にあつては、その評価を50点とする。					
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 健康について	日本の健康水準や健康問題を把握し、健康観を考えることができる。		
		2週	生活習慣病と健康①	生活習慣病の症状とその予防について学び、自らの生活習慣を考えることができる。		
		3週	生活習慣病と健康②	健康からみた食事・運動・休養と睡眠の意義について正しい理解をすることができる。		
		4週	生活習慣病と健康③	喫煙と飲酒が及ぼす健康影響を学び、社会の取り組みを理解し、自らの対策を考えることができる。		
		5週	感染症について	感染症が及ぼす影響を学び、その予防方法や対策を理解することができる。		
		6週	心身の健康①	欲求にはどのようなものがあり、心の安定をはかる働きがあるのか理解することができる。		
		7週	心身の健康②	心身相関のしくみとストレスについて学び、自らのストレス対処について考えることができる。		
		8週	応急手当	日常的な応急手当について学び、生活の中で役立てる方法を考えることができる。		
	2ndQ	9週	運動・スポーツの文化的特徴①	スポーツの文化的内容やスポーツ文化の変容について理解することができる。		
		10週	運動・スポーツの文化的特徴②	スポーツが社会に及ぼす影響を経済や倫理的観点から理解し、将来の発展について考えることができる。		
		11週	体のつくりと働き	骨格系、筋肉系の正しい名称を覚えるとともに、動きのメカニズムについて理解することができる。		
		12週	スポーツの学び方①	技術と技能の違いを学び、戦術・作戦・戦略について集団球技を例に考えることができる。		
		13週	スポーツの学び方②	技能の上達過程について理解し、練習を効果的に進める工夫について考えることができる。		
		14週	スポーツの学び方③	体力トレーニングを支える基礎理論を学び、自らに必要なトレーニングについて考えることができる。		
		15週	期末試験	前期授業範囲全般を検討の上出題する。		
		16週	成績評価・確認 授業評価アンケート	成績評価の確認をする。授業評価アンケートの実施。		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	0	0	0	20	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	体育 I
科目基礎情報						
科目番号	0002			科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	国際ビジネス学科			対象学年	1	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	「Active Sports 総合版」大修館書店					
担当教員	大橋 千里					
到達目標						
(1) 生涯スポーツの観点に立てるよう、運動への関心が高くなる。 (2) 集団行動 (公正、協力、責任) を普段から行えるようにする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	準備・活動の場面において、自己および仲間のとるべき行動を判断し、適切に働きかけながら、主体的に活動できる。		準備・活動の場面において、自己のとるべき行動を判断し、仲間と協力しながら活動できる。		準備・活動の場面において、自己のとるべき行動を判断できない。仲間との協力や活動への自主的な参加ができない。	
評価項目2	自己の能力を理解し、適切な運動技能、運動強度を判断し、応用的技能の習得や体力向上をはかることができる。		教員が指示した運動課題に従い、運動の基本技術や体力を身につけることができる。		教員の指示に従わず、運動の基本技術や体力を身につけることができない。	
評価項目3	自己や周囲の安全に留意しながら活動し、必要に応じて危険を回避する行動や、周囲への声かけができる。		自己の安全に留意しながら活動し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。		安全に留意しながら活動することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
ディプロマポリシー 2 ディプロマポリシー 3						
教育方法等						
概要	(1) スポーツの実践を通して、生涯にわたり継続的にスポーツに親しむ資質や能力を育てる。 (2) 健康の増進と体力の向上を図り、協力的で明るく活力のある生活を営む態度を育てる。					
授業の進め方・方法	準備運動・基礎体力トレーニングまでは全員一斉に実施し、それ以降の活動については男女別々に実施する。1年間を通して、基礎体力トレーニングは実施するとともに、4種目のチーム競技である球技種目を実施する。 事前に行う準備学習：前回の実技の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておくこと。 (授業外学習・事後) 授業内容の復習を行うこと。					
注意点	(授業改善策) 安全に対する態度を促す。 ※本科目では、50点以上の評価で単位を認定する。 評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にとっては、その評価を50点とする。					
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 集団行動訓練①		ガイダンスを通じて、日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができるようになる。集合隊形、号令を中心とした集団行動ができるようになる。	
		2週	集団行動訓練② 体力診断テスト①		整列と隊列変換を中心とした集団行動を通じて、周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。 正しい測定方法を理解する。新体力テストの測定をし、自らの体力レベルを知る。	
		3週	体力診断テスト②		正しい測定方法を理解する。新体力テストの測定をし、自らの体力レベルを知る。	
		4週	バレーボール①		オーバーハンドパス、アンダーハンドパスを知り、パスゲームができる。	
		5週	バレーボール②		サーブを知り、サーブレシーブからパスをつなげ相手に返すことができる。	
		6週	バレーボール③		スパイクについて学び、三段攻撃ができる。簡易なルールのゲームを通じて、円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる。	
		7週	バレーボール④		ルールを理解し、仲間と楽しめる簡易ルールを話し合い、ゲームを実施することができる。	
		8週	バレーボール⑤		ゲームのプレイおよび審判を行う中で、法令やルールを遵守した行動をとれる。	
	2ndQ	9週	バレーボール⑥		個人技能テストをし、リーグ戦によるゲームを実施することができる。	
		10週	タグラグビー①		平パス、スクリューパス、ポップパスを理解し、実施できる。	
		11週	タグラグビー②		アタック、ディフェンスを理解し、実施できる。	
		12週	タグラグビー③		ルールを知り、チームでスペースを使った攻撃ができる。	
		13週	タグラグビー④		チームで組織的な守備ができる。	

後期		14週	タグラグビー⑤	チームで協調・共同することの意義・効果を認識し、リーグ戦によるゲームを通じてゲームの評価と練習課題をチームごとに考えることができる。
		15週	タグラグビー⑥	試合計画に従って、仲間と協力してリーグ戦によるゲームを運営することにより、他者の意見を聞き合意形成することができる。
		16週		
	3rdQ	1週	体力診断テスト①	正しい測定方法を理解する。新体力テストの測定をし、自らの体力レベルを知る。
		2週	体力診断テスト②	正しい測定方法を理解する。新体力テストの測定をし、自らの体力レベルを知る。
		3週	バスケットボール①	パス、ドリブル、シュートの個人技能を習得できる。
		4週	バスケットボール②	1対1や2対1のゲームで個人技能を活用できる。
		5週	バスケットボール③	簡易なルールのゲームで、仲間と協力してゲームを楽しむ中で、合意形成のために会話を成立させることができる。
		6週	バスケットボール④	ルールを理解し、仲間と楽しめる簡易ルールを話し合い、ゲームを実施することができる。
		7週	バスケットボール⑤	ゲームのプレイおよび審判を行う中で、法令やルールを遵守した行動をとれる。
		8週	バスケットボール⑥	個人技能テストをし、リーグ戦によるゲームを実施することができる。
	4thQ	9週	アルティメット①	フライングディスクの特徴をつかみ、パス、キャッチの個人技能を習得できる。
		10週	アルティメット②	2対2や3対3のミニゲームで個人技能を活用できる。
		11週	アルティメット③	簡易なルールのゲームで、仲間と協力してゲームを楽しむことができる。
		12週	アルティメット④	ルールを理解し、仲間と楽しめる簡易ルールを話し合い、ゲームを実施することができる。
		13週	アルティメット⑤	ゲームのプレイおよび審判を行う中で、法令やルールを遵守した行動をとれる。
		14週	アルティメット⑥	試合計画に従って、仲間と協力してリーグ戦によるゲームを運営することにより、他者の意見を聞き合意形成することができる。
		15週	授業振り返り	これまでの体育での取り組みを自己評価、相互評価する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	65	0	0	0	0	35	100
基礎的能力	30	0	0	0	0	0	30
専門的能力	35	0	0	0	0	35	70
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高専専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	書道			
科目基礎情報									
科目番号		0003		科目区分	一般 / 選択				
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科		国際ビジネス学科		対象学年	1				
開設期		後期		週時間数	2				
教科書/教材		書道Ⅰ（光村図書）							
担当教員		山本 有希,立田 麻見							
到達目標									
古典を臨書することで技術を習得し、更に多様な書美を追求し『習字』と『書道』の違いを認識させる。創作作品の制作により、自分自身と向き合い、素直に表現する心を養う。									
ルーブリック									
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1 臨書		原本（手本）を忠実に模写し、尚且つ線質に深みと勢いが有ること。		原本（手本）を模写し、臨書の特徴をとらえることができる。		原本（手本）の特徴がとらえられない。			
評価項目2 創作		言葉の持つ意味を表現でき、自分の思いを線にのせることができる。		言葉の意味の表現が不足しているが、まとめることができる。		自分の思いを表現できる言葉が選ぶことができない。			
学科の到達目標項目との関係									
ディプロマポリシー 3									
教育方法等									
概要		学習目標（授業のねらい） 古典の臨書で技術を身に付けさせる。筆の理（角度によって線質が変わること）を理解できるよう指導する。創作作品の素材は、自分自身と向き合い、素直に表現できる語句を選べるよう導く。臨書を基に、更に語句に合った表現が出来るよう指導する。							
授業の進め方・方法		講義・実習 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと （授業外学習・事前）授業内容を予習しておく。 （授業外学習・事後）授業内容に関する課題を解く。							
注意点		授業計画は、学生の理解度に応じて変更する場合がある。							
授業の属性・履修上の区分									
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業			
授業計画									
後期	3rdQ	週	授業内容		週ごとの到達目標				
		1週	ガイダンス 楷書の古典とその書風		古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。孔子廟堂碑『天河』の臨書。				
		2週	楷書の古典とその書風		古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。九成宮醴泉銘『清泉』の臨書。				
		3週	楷書の古典とその書風		古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。雁塔聖教序『春光』の臨書。				
		4週	楷書の古典とその書風		古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。顔氏家廟碑『守道』の臨書。				
		5週	楷書の古典とその書風		古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。牛橛造像記『妙楽』の臨書。				
		6週	行書の古典とその書風		古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。蘭亭序『清風』の臨書。				
		7週	行書の古典とその書風		古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。蘭亭序の臨書。				
	4thQ	8週	行書の古典とその書風		古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。風信帖『恵風』の臨書。				
		9週	行書の古典とその書風		蘭亭序または風信帖から自由に選んだ文字の臨書。				
		10週	漢字仮名交じりの書		構成や線質によって変化することを示し、歌の一節などを書かせる。				
		11週	漢字仮名交じりの書		構成や線質によって変化することを示し、歌の一節などを書かせる。				
		12週	色紙作品		自身で選んだ語句の漢字を辞書で調べ、構成し自分なりに表現し書かせる。				
		13週	色紙作品		アドバイス、または教員が参考手本を書き、ひたすら書き込ませる。				
		14週	色紙作品		色紙に清書し、押印し、作品を完成させる。				
		15週	鑑賞とまとめ		出来上がった色紙作品の鑑賞会。作品についての制作意図を述べ、また他の生徒の作品について感じたことを述べる。				
16週									
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標									
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
評価割合									
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計		

総合評価割合	0	30	0	0	50	20	100
基礎的能力	0	30	0	0	50	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	総合英語 I	
科目基礎情報							
科目番号	0004			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	国際ビジネス学科			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	New Rays English Communication I、英単語クリティカル+						
担当教員	金本 英朗						
到達目標							
・与えられた題材の英文を聞いたり読んだりして、その内容を正確に理解することができる。 ・与えられたテーマについて、自分の考えを十分相手に伝わるよう、話したり書いたりすることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
読むこと・聞くこと		与えられた題材の英文を聞いたり読んだりして、その内容を正確に理解することができる。		与えられた題材の英文を聞いたり読んだりして、その内容を概ね理解することができる。		与えられた題材の英文を聞いたり読んだりして、その内容をほとんど理解することができない。	
話すこと		与えられたテーマについて、自分の考えを十分に相手に伝わるように話す（発表・やりとり）ことができる。		与えられたテーマについて、自分の考えを概ね相手に伝わるように話す（発表・やりとり）ことができる。		与えられたテーマについて、自分の考えをほとんど話す（発表・やりとり）ことができない。	
書くこと		与えられたテーマについて、自分の考えを十分に相手に伝わるように書くことができる。		与えられたテーマについて、自分の考えを概ね相手に伝わるように書くことができる。		与えられたテーマについて、自分の考えをほとんど書くことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 3							
教育方法等							
概要		・この授業では、語彙知識を身につけながら、英文を読んだり聞いたりする学習をする。また、語彙や文法の知識を活用しながら与えられたテーマについて表現する（話す、書く）活動を行う。					
授業の進め方・方法		・英文を読んだり聞いたりする学習では、英文の内容を基に表現（話す、書く）する活動も行う。 ・与えられたテーマについて表現する活動（プロジェクト学習）では、パソコンを活用して調べたり、辞書を活用して英文を作成したりする。 ・授業外で予習・復習を十分にすることが望まれる。					
注意点		・授業には必ずパソコンと辞書を持参すること。 ・私語やスマホの使用に注意し、自立した態度で授業に臨むこと。 ・評価が50点に満たないものは、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められたものは、その評価を50点とする。					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション Lesson 1: The Future is Yours		授業の概要や目的について理解する。 英文を読んだり聞いたりする（導入）。		
		2週	Lesson 1: The Future is Yours プロジェクト学習 1-1		英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 プロジェクト学習 導入		
		3週	Lesson 1: The Future is Yours プロジェクト学習 1-2		英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 プロジェクト学習 準備		
		4週	Lesson 2: The Power of Design プロジェクト学習 1-3		英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 プロジェクト学習 準備・練習		
		5週	Lesson 2: The Power of Design プロジェクト学習 1-4		英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 プロジェクト学習 リハーサル		
		6週	プロジェクト学習 1-5		プロジェクト学習 発表		
		7週	Lesson 3: Plastic is Everywhere プロジェクト学習 1-6		英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 プロジェクト学習 作文		
		8週	中間試験		成績評価・確認		
	2ndQ	9週	答案の返却 Lesson 3: Plastic is Everywhere		解答と解説 英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。		
		10週	Lesson 4: OriHime, A Vehicle of Your Heart プロジェクト学習 2-1		英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 プロジェクト学習 導入		
		11週	Lesson 4: OriHime, A Vehicle of Your Heart プロジェクト学習 2-2		英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 プロジェクト学習 準備		
		12週	Lesson 5: Satoko and Nada プロジェクト学習 2-3		英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 プロジェクト学習 リハーサル		
		13週	プロジェクト学習 2-4		プロジェクト学習 発表		

後期		14週	Lesson 5: Satoko and Nada プロジェクト学習 2 - 5	英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 プロジェクト学習 作文
		15週	期末試験	成績評価・確認
		16週	答案の返却	解答と解説
	3rdQ	1週	Lesson 6: The Voice of Children	英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。
		2週	Lesson 6: The Voice of Children プロジェクト学習3-1	英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 プロジェクト学習 導入
		3週	Lesson 7: Human Habitation on Mars プロジェクト学習3-2	英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 プロジェクト学習 準備
		4週	Lesson 7: Human Habitation on Mars プロジェクト学習3-3	英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 プロジェクト学習 準備・練習
		5週	Lesson 8: A Loving Story プロジェクト学習3-4	英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 プロジェクト学習 リハーサル
		6週	プロジェクト学習3-5	プロジェクト学習 発表
		7週	Lesson 8: A Loving Story プロジェクト学習3-6	英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 プロジェクト学習 作文
		8週	中間試験	成績評価・確認
	4thQ	9週	答案の返却 Lesson 9: Edo, The Resilient City	解答と解説 英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。
		10週	Lesson 9: Edo, The Resilient City プロジェクト学習4-1	英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 プロジェクト学習 導入
		11週	Lesson 9: Edo, The Resilient City プロジェクト学習4-2	英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 プロジェクト学習 準備
		12週	Lesson 10: A Quality Education for All プロジェクト学習4-3	英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 プロジェクト学習 リハーサル
		13週	プロジェクト学習4-4	プロジェクト学習 発表
		14週	Lesson 10: A Quality Education for All プロジェクト学習4-5	英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 プロジェクト学習 作文
		15週	期末試験	成績評価・確認
		16週	答案の返却	解答と解説

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	試験	作文・発表 他	単語のテスト	提出物	その他	合計
総合評価割合	50	40	10	0	0	100
基礎的能力	50	40	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英語表現 I	
科目基礎情報							
科目番号		0005		科目区分	一般 / 選択		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科		国際ビジネス学科		対象学年	1		
開設期		通年		週時間数	2		
教科書/教材		『総合英語One』（アルク）、『総合英語One完全準拠Grammar Book』（アルク）、『総合英語One完全準拠Workbook』（アルク）					
担当教員		大畑 真也					
到達目標							
本科目は、英語という言語をとおして、学問分野の枠をこえた豊かな教養を身に付けると同時に、ある事柄について多角的な観点から批判的に検討することができる能力を習得することをめざす（DP3）。そのために、本科目の受講生は、とりわけ次の二つを習得することを目標とする：							
（1）高校初・中級レベルの基本的な英語に関する知識（英文法）を理解することができる							
（2）英文法の知識を、実際に自由自在に運用することができる。							
さらに、本科目の受講生には、母語である日本語と英語の比較を通して、「ことば」のもつ面白さに気づいてもらいたい。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		英検準2級から2級レベルの語彙や文構造を用いた英文を聞いたり読んだりして、その内容を正確に理解することができる。		英検準2級から2級レベルの語彙や文構造を用いた英文を聞いたり読んだりして、その内容をだいたい理解することができる。		英検準2級から2級レベルの語彙や文構造を用いた英文を聞いたり読んだりして、その内容をほとんど理解することができない。	
評価項目2		英検準2級レベルの言語材料を用いて、自分の考えや身のまわりのことについて、十分に相手に伝わるように話す（発表・やりとり）ことができる。		英検準2級から2級レベルの言語材料を用いて、自分の考えや身のまわりのことについて、だいたい相手に伝わるように話す（発表・やりとり）ことができる。		英検準2級から2級レベルの言語材料を用いて、自分の考えや身のまわりのことについて、あまり話す（発表・やりとり）ことができない。	
評価項目3		英検準2級から2級レベルの言語材料を用いて、自分の考えや身のまわりのことについて、十分に相手に伝わるように書くことができる。		英検準2級から2級レベルの言語材料を用いて、自分の考えや身のまわりのことについて、だいたい相手に伝わるように書くことができる。		英検準2級から2級レベルの言語材料を用いて、自分の考えや身のまわりのことについて、ほとんど書くことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 3							
教育方法等							
概要		本科目では、英語を運用する基盤であるルール（総じて英文法という）を学ぶ。さらに、演習や表現活動をとおして、学習した知識を自由自在に運用できるようにする。特に、これまでの学習で積み重ねてきた事柄を整理することに加えて、品詞や文法という枠組みを通して英語に触れることを通して、語学の学習基盤を培う。さらに、受講生には、日本語と英語を比較することによって、言語をメタ的にみる力を身につけてもらいたい。					
授業の進め方・方法		教員単独による講義並びに演習を基本とする。また、適宜学生どうしの学び合いも取り入れつつ進めていく。（授業外学習・事前）学習するトピックについて、中学校で学習した内容を振り返っておく。（授業外学習・事後）『総合英語One』を読み、学習した内容を自分の中で咀嚼・整理する。学習した英文を繰り返して音読することで定着に努める。さらに、実際に英語を運用する際に、本科目で学習したことを思い出し、少しでも文法に対して意識を向けるようにする。					
注意点		＜一般的な注意事項＞ ・授業に際しては、辞書を持参すること。 ・授業中における、不必要な会話や、許可のないスマートフォンの使用は厳禁とする。 ・シラバスは計画であるため、進度や学生の理解度等におうじて、柔軟に授業運営を行う。 ＜評価について＞ ・原則として、毎回行う小テストを30％、定期試験を70％として評価を行う。別途課題を課したり確認テストを行ったりすることもありうる。 ・本科目では、50点以上の評価で単位を認定する。評価が50点に満たないものは、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められたものにあつては、その評価を50点とする。					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		授業の概要や目的について理解する。		
		2週	品詞と文型①		英文法の基本概念を理解し、問題を解くことができる。		
		3週	品詞と文型②		英文法の基本概念を理解し、問題を解くことができる。		
		4週	時制（1）		時制についての基本概念を理解し、問題を解くことができる。		
		5週	時制（2）		時制についての基本概念を理解し、問題を解くことができる。		
		6週	時制（2）・完了（1）		時制についての基本概念を理解し、問題を解くことができる。		
		7週	完了（2）		時を表す表現についての理解を深め、問題を解くことができる。		
		8週	中間試験		成績評価・確認		
		2ndQ	9週	答案の返却 助動詞（1）		解答と解説等 助動詞のもつコアな意味について理解することができ、問題を解くことができる。	

後期		10週	助動詞（2）	助動詞のもつ意味について理解し、問題を解くことができる。	
		11週	受動態（1）	態について理解し、日本語と英語の違いについて意識的にすることができる。	
		12週	不定詞（1）	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		13週	不定詞（2）・動名詞（1）	不定詞・動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		14週	動名詞（2）	動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		15週	期末試験	成績評価・確認	
		16週	答案の返却等	成績評価・確認等	
	3rdQ	1週	前期の復習と分詞（1）	不定詞・動名詞・分詞のつながりを理解することができる。	
		2週	分詞（2）	分詞（2）について理解し、問題を解くことができる。	
		3週	不定詞・動名詞・分詞（復習）	不定詞・動名詞・分詞について理解を深めることができる。	
		4週	関係詞（1）	関係詞について理解し、問題を解くことができる。	
		5週	関係詞（2）	関係詞について理解し、問題を解くことができる。	
		6週	比較（1）	比較について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	比較（2）	比較について理解し、問題を解くことができる。	
		8週	中間試験	成績評価・確認	
		4thQ	9週	答案の返却	解答と解説等
			10週	仮定法（1）	英語の仮定法の概念について理解し、問題を解くことができる。
			11週	仮定法（2）	英語の仮定法について理解し、問題を解くことができる。
			12週	疑問文・否定文	英語疑問文・否定文の面白さに気づき、問題を解くことができる。
			13週	その他の文法項目	文法項目と読解をつなげた演習を行う。
			14週	復習	これまでの学習の振り返りを行う。
			15週	学年末試験	成績評価・確認
			16週	答案の返却	解答と解説等

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合						
		試験	小テスト		合計	
総合評価割合		70	30		100	
基礎的能力		70	30		100	
専門的能力		0	0		0	
分野横断的能力		0	0		0	

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	英会話 I A
科目基礎情報					
科目番号	0006		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	American Headway 2A (3rd edition); Communication Spotlight: Business 1				
担当教員	大場 エリザベス, リ オリガ				
到達目標					
1. To develop strategies and methods to improve English communication through targeted speaking activities. 2. To promote Leaner Agency in the classroom. 3. To develop Motivation and Confidence to communicate in English through meaningful and relevant teaching materials and course content. 4. To increase vocabulary, word chunks and useful expressions. 5. To improve reading, writing and listening skills (to lesser degree) through targeted activities in the textbook.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安 Ideal level of achievement (80%)	標準的な到達レベルの目安 Standard Level of Achievement (50%)	未到達レベルの目安 Unacceptable Level of Achievement <50%		
評価項目1 English: Pronunciation, intonation, rhythm, stress, linking	Student clearly displays a high level of control of English.	Student partially displays moderate control of English.	Student displays a low control of English.		
評価項目2 Communication and Conversation	Student clearly displays a high level to communicate ideas/opinions clearly and effectively. Actively engages in conversation and makes efforts to move the conversation forward.	Student displays a moderate level to communicate ideas/opinions clearly and effectively. Occasionally, engages in conversation and makes some effort to move the conversation forward.	Student displays a low level to communicate ideas/opinions clearly and effectively. Seldom engages in conversation and makes little effort to move the conversation forward.		
評価項目3 Grammar in Conversation	Student produces language with a high level of accuracy of grammatical and lexical structures.	Student produces language with a moderate level of accuracy of grammatical and lexical structures.	Student produces language with a low level of accuracy of grammatical and lexical structures.		
Delivery: Confidence, Memory, Eye-contact, Physical Message	Student displays a high level of control and effectively executes all items of Delivery.	Student displays a moderate level of control and effectively executes all items of Delivery.	Student displays a low level of control and effectively executes all items of Delivery.		
Textbook Contents: grammar, listening, reading, and computer exercises	Student clearly displays a high level of understanding of the textbook contents and computer assisted exercises	Student displays a moderate level of understanding of the textbook contents and computer assisted exercises	Student displays a low level of understanding of the textbook contents and computer assisted exercises		
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	Introduction of useful vocabulary and expressions including word chunks to conduct basic English conversations in everyday life and business settings on a variety of targeted Topics and Issues. Targeted speaking and presentation activities will be conducted in conjunction with the contents of the textbook.				
授業の進め方・方法	teacher-student lecture form, pair-work, group-workによるtask-based learning, group-based learning.				
注意点	Assignments must be turned in by the specified deadline (if any). Students not present in class should inform the teacher. Make up exams or missed deadlines should be discussed with the teacher. This syllabus is subject to change. If the student didn't meet the overall minimal level of achievement for a grade (50%) at the end of the school year, then the student can take a make-up exam at the beginning of the next school year to reach the minimal level.				
授業の属性・履修上の区分					
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応	
☒ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Guidance Introductions	Explanation of syllabus. Introduction activities.	
		2週	Unit 1	Introduction of new words and phrases. Explanation of grammar structure.	
		3週	Unit 1 Continued	grammar check; reading, listening, speaking activities	
		4週	Unit 1 Continued	Unit's video lesson: video + worksheet	
		5週	Unit 1 Continued	Book activities	
		6週	Unit 2	Introduction of new words and phrases. Explanation of grammar structure.	
		7週	Unit 2 Continued	grammar check; reading, listening, speaking activities	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	Unit 2 Continued	Book activities	
		10週	Unit 2 Continued	Book activities	

		11週	Unit 3	Introduction of new words and phrases. Explanation of grammar structure.
		12週	Unit 3 Continued	grammar check; reading, listening, speaking activities
		13週	Unit 3 Continued	Book activities
		14週	Test Review	Review
		15週	期末試験	Units 1-3
		16週	成績確認	成績の評価。既習事項の定着と確認。 授業評価アンケートの実施
後期	3rdQ	1週	Unit 4	Introduction of new words and phrases. Explanation of grammar structure.
		2週	Unit 4 Continued	grammar check; reading, listening, speaking activities
		3週	Unit 4 Continued	Book activities
		4週	Unit 4 Continued	Book activities
		5週	Unit 5	Introduction of new words and phrases. Explanation of grammar structure.
		6週	Unit 5 Continued	Book activities
		7週	Unit 5 Continued	Book activities
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	Unit 5 Continued	Book activities
		10週	Unit 6	Introduction of new words and phrases. Explanation of grammar structure.
		11週	Unit 6 Continued	Book activities
		12週	Unit 6 Continued	Book activities
		13週	Unit 6 Continued	Book activities
		14週	Review	Review for Final Test
		15週	期末試験	Units 4 - 6
		16週	成績確認	成績の評価。既習事項の定着と確認。 授業評価アンケートの実施

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	中間試験 1	期末試験 1	中間試験 2	期末試験 2	宿題・発表・授業 参加	合計
総合評価割合	25	25	25	25	0	100
リーディング	25	0	25	0	0	50
リスニング	0	0	0	0	0	0
スピーキング	0	25	0	25	0	50

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	総合国語 I A1	
科目基礎情報							
科目番号	0008		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	「現代の国語」「言語文化」(大修館書店)						
担当教員	久保 陽子						
到達目標							
調べる、整理する、思考する、書く、といった学習に必要となる基本を学習する。必要に応じて文献を調査し、正しく引用し、自分の意見を論理的に話したり、書いたりできるようにする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	実用的な文章を、適切な形式や語句を用いて効果的に作成できる。		実用的な文章を、適切な形式や語句を用いて作成できる。		実用的な文章を、適切な形式や語句を用いて作成できない。		
評価項目2	常用漢字の音訓を正しく使える。常用漢字が8割以上書ける。		常用漢字の音訓を正しく使える。常用漢字が8割書ける。		常用漢字の音訓を正しく使える。常用漢字が書けない。		
評価項目3	文学的な文章に描かれた人物やものの見方を理解し、根拠に基づき自分の意見を述べることができる。		文学的な文章に描かれた人物やものの見方を理解し、自分の意見を述べることができる。		文学的な文章に描かれた人物やものの見方を理解し、自分の意見を述べるできない。		
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 3							
教育方法等							
概要	学校生活、または社会に出てからも役立つよう、言葉の使い方、情報の調査の仕方、メールの書き方など、基本的な知識やマナーを身につける。文学的な文章に描かれる登場人物の心情やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べたり、他者の意見を理解することで、国語の総合力を養っていく。作品の読解を通して、自分の生きる社会や文化について考えを深めていく。						
授業の進め方・方法	義務教育レベルの漢字については、毎時、小テストを実施し、読み・書きの定着を図る。教科書の内容については基本的には講義形式だが、調べ学習や発表等、受講生から積極的な参加をうながしたい。 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。						
注意点	受け身ではなく、積極的に授業に参加してほしい。授業内容については、状況に応じて受講生と相談のうえ変更する可能性もあるのでご了承ください。 本科目では、50点以上の評価で単位を認定する。評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にとっては、その評価を50点とする。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 自己紹介	国語を学ぶ意義について自分の言葉で説明できる。			
		2週	論理的な文章の読解 1－1 －的確に伝える	文章の構成や筆者の主張を理解できる。			
		3週	論理的な文章の読解 1－2 －的確に伝える	口頭発表を工夫して行える。			
		4週	図書館の使い方・情報の調べ方	OPACや図書館の使い方を理解し、適切に利用できる。			
		5週	辞書の使い方	電子辞書の使い方を理解し、適切に利用できる。			
		6週	論理的な文章の読解 2－1 －要点をつかむ	各段落の細部を検証し、語句や論旨を捉えることができる。			
		7週	論理的な文章の読解 2－2 －要点をつかむ	全体の構造を理解し、作品に対する自分の意見を表現できる。			
		8週	前期中間試験	これまでの知識の定着をはかる。			
	2ndQ	9週	文学的な文章の読解 1－1 －言葉の紡ぐ世界	全体を音読し、段落分けをすることができる。			
		10週	文学的な文章の読解 1－2 －言葉の紡ぐ世界	各段落の細部を検証し、語句や論旨を捉えることができる。			
		11週	文学的な文章の読解 1－3 －言葉の紡ぐ世界	作家や作品の時代背景について整理し、説明できる。			
		12週	文学的な文章の読解 1－4 －言葉の紡ぐ世界	表現される登場人物の心境や状況について、文章から読み取ることができる。			
		13週	文学的な文章の読解 1－5 －言葉の紡ぐ世界	作品の下敷きになった先行作品との比較から、相対的に作品についての理解を深めることができる。			
		14週	文学的な文章の読解のまとめ	全体の構造を理解し、作品に対する自分の意見を表現できる。			
		15週	後前期期末試験	これまでの知識の定着をはかる。			
		16週	期末試験の解答・復習	答案返却。これまでの復習と定着を図る。自己の学習到達度を知る。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100	
基礎的能力	50	0	0	0	0	30	80	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20	

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	総合国語 I C	
科目基礎情報							
科目番号	0011		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年		1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	自主教材						
担当教員	岡部 寛子						
到達目標							
義務教育レベルの国語力の復習と定着を目指すとともに、論理的文章および文学的文章を根拠に基づき論理的に理解する能力を育てる。漢字や語句についても、まずは義務教育レベルの復習と定着を目指す。日本人が古来愛読してきた古典を読み理解することで、日本人としての基礎的教養と多用なものの見方を身につける。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		論理的な文章や文学的文章を論理的に理解し、自分の言葉で説明することができる		論理的な文章や文学的文章を論理的に理解し、説明することができる		論理的な文章や文学的文章を論理的に理解し、説明することができない	
評価項目 2		古文の歴史的仮名遣いを理解し、音読して、内容を把握し自分の言葉で説明することができる。		古文の歴史的仮名遣いを理解し、音読して、内容を把握し説明することができる。		古文の歴史的仮名遣いを理解し、音読して、内容を把握し説明することができない。	
評価項目 3		漢文の規則を理解し、音読し書き下し文に改め、内容を自分の言葉で説明することができる。		漢文の規則を理解し、音読し書き下し文に改め、内容を説明することができる。		漢文の規則を理解し、音読し書き下し文に改め、内容を説明することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 3							
教育方法等							
概要		義務教育レベルの国語力の復習と定着を目指すとともに、論理的な文章を論理を把握し、理解する。文学的文章を登場人物の心情を理解し、テーマを考える。また、日本人が古来愛読してきた古典を読み理解することで、基礎的教養と多用なものの見方を身につける。古典を通して広がりや深みのある語彙力を身につける。作品についての調査や考察を文章にまとめ、発表する。					
授業の進め方・方法		講義形式で行うが、音読等による授業参加を加えて理解を深める。 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと （授業外学習・事前）授業内容を予習しておく。 （授業外学習・事後）授業内容に関する課題を解く。					
注意点		◆関連科目 内容の関連：総合国語IA・総合国語IB（後期） コミュニケーション能力：外国語・保健体育 人間の探求と複眼的思考：歴史・政治経済 ◆受講する皆さんへのメッセージ： ・学生の積極的な参加、発言、介入を期待している。 ・双方向のやりとりを増やし、理解の定着を目指す。 ・理解度を確認し進めるため、シラバスの若干の変更はあり得る。 ・的確な板書を心がけ、ノートをとる時間を確保する。 ・評価が60%に満たない学生には、追認試験を行うことがある。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	なめとこ山の熊		全文を音読し、テーマを考え、文章にしてみる。		
		2週	なめとこ山の熊		小十郎の人物像を読み取り、小十郎となめとこ山の熊との関係を考える。		
		3週	なめとこ山の熊		町の旦那と小十郎の関係を読み取る。小十郎が熊との出会いを通してどのように変化していくかを読み取る。		
		4週	なめとこ山の熊 永訣の朝		小十郎の死の場面から、テーマを掘り下げる。 宮沢賢治の代表作である妹の死を詠んだ詩を味わう。		
		5週	源氏物語 若紫		日本の古典を代表する源氏物語について、文学史的な位置付けを理解するとともに、その一部分を読んでもる		
		6週	源氏物語 若紫		若紫の冒頭 源氏の目に飛び込んできた風景を読み取る。		
		7週	源氏物語 若紫		尼君の少女に対する思いを読み取る。それを見る源氏の思いを理解する。		
		8週	後期中間試験		既習事項の確認と定着を図る。 自身の学習の仕方を点検する。		
	4thQ	9週	源氏物語 若紫		光源氏の少女への思いを理解するとともに、その背後にある源氏の思いを読み取る。		
		10週	源氏物語 若紫		若紫の全文を読み取り、敬語について理解する。		
		11週	ミロのヴィーナス		全文を音読し、全体の構成を読み取る。 抽象的な語句の意味を理解する。		
		12週	ミロのヴィーナス		失われた両腕の意味を理解する		
		13週	ミロのヴィーナス		ヴィーナスの両腕の復元案について考察する。		

		14週	ミロのヴィーナス		失われらものが「手」である意味を考え、この文章のテーマを掘り下げる。		
		15週	期末試験		既習事項の確認と定着を図る。		
		16週	答案返却		答案を返却し、学習を確認する。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	地理
科目基礎情報						
科目番号	0012		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	二宮書店『地理総合 世界に学び地域へつなぐ』、二宮書店『詳解現代地図』、第一学習社『最新地理図表 GEO』。					
担当教員	大西 宏治					
到達目標						
①学習している対象地域を常に地図帳上で確認できる。 ②人間の諸活動と自然との関わりを感じ得る。 ③日本と周辺諸国との間に存在する地域構造を知り、自分たちの生活がその構造の上に成立していることを自覚をする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	地図帳を活用して、世界に関する様々な地域の課題を調べたり理解したりできる。		地図帳を活用して、世界に生起する様々な地域の課題について、一部の地域であれば調べたり理解したりできる。		地図帳を活用して、世界で生起する様々な地域の問題を課題について、ほとんど調べたり理解できない。	
評価項目2	人間の諸活動と自然との関わりについて十分に理解できる。		人間の諸活動と自然との関わりについておおむね理解できる。		人間の諸活動と自然との関わりについて不十分な理解しかない。	
評価項目3	日本と周辺諸国との地域構造について十分に理解できる。		日本と周辺諸国との地域構造についておおむね理解できる。		日本と周辺諸国との地域構造についてほとんど理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
ディプロマポリシー 3						
教育方法等						
概要	前期から後期半ばまでは地図活用や自然地理を中心に、後期半ばから人文地理を中心に授業を行う。我々が暮らす地球上では、地域によって異なった景観を見せ、異なった生活様式が営まれている。その差異は全て背景があり、科学的に検証することによって「地域構造」というかたちが浮かび上がってくる。その「地域構造」という概念を学生に知らせることが最終的目標である。					
授業の進め方・方法	教員単独による講義 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。					
注意点	①白地図等による作業を適時入れる。 ②評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にあつては、その評価を50点とする。評価方法および評価基準は本試験に準じる。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	球面上の世界		ガイダンス (目的・内容・方法・評価など授業計画の説明)。地球上の位置と時差、世界観について理解する	
		2週	世界から見た日本の位置と領域		地図投影法や国家の領域について理解する	
		3週	グローバルにみる国家と領域		さまざまな資源をめぐる領有権やかかわりのある国々の間の関係性について理解する	
		4週	国家間の結びつき		国際組織や通信、交通、物流、観光による国家間の結びつきを理解する	
		5週	主題図・グラフ・GIS		統計地図とGISの仕組みを理解する	
		6週	身近な地図とGIS		GISならびに地理院地図の体験と身近な地図の機能について理解する	
		7週	GISを使った身近な地図の作成		GISを使って身近な地域の分析法を理解する	
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	世界の地形 (1)		内的営力と外的営力を理解する	
		10週	世界の地形 (2)		外的営力の地形を理解する	
		11週	世界の気候 (1)		気候の成り立ち① 気候要素・気候因子、② 気候の変化と地球温暖化、を理解する	
		12週	世界の気候 (2)		世界の気候区分① ケッペンの気候区分、熱帯	
		13週	世界の気候 (3)		世界の気候区分② 乾燥帯、温帯	
		14週	世界の気候 (4)		世界の気候区分③ 亜寒帯、寒帯	
		15週	期末試験		実施する	
		16週	成績評価・確認			
後期	3rdQ	1週	産業と生活文化 (1)		世界の農業、工業、サービス業について理解する	
		2週	産業と生活文化 (2)		世界の農業、工業、サービス業について理解する	
		3週	宗教・言語と生活文化 (1)		宗教、言語、生活文化の多様性を理解する	
		4週	宗教・言語と生活文化		宗教、言語、生活文化の多様性を理解する	
		5週	世界各地の生活文化 (1)		東アジアの研究	
		6週	世界各地の生活文化 (2)		東南アジア・南アジアの研究	

		7週	中間試験	
		8週	世界各地の生活文化（3）	イスラーム世界の研究
	4thQ	9週	世界各地の生活文化（4）	アフリカ諸国の研究
		10週	世界各地の生活文化（5）	EUとロシアの研究
		11週	世界各地の生活文化（5）	南北アメリカの研究
		12週	世界各地の生活文化（6）	オセアニアの研究
		13週	地球的課題と国際協力	持続可能な社会についての理解を深める
		14週	日本の自然災害	日本の自然災害について理解する
		15週	期末試験	実施する
		16週	成績評価・確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	音楽		
科目基礎情報								
科目番号	0013			科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	国際ビジネス学科			対象学年	1			
開設期	後期			週時間数	2			
教科書/教材	高校生の音楽Ⅰ（教育芸術社）							
担当教員	石井 哲夫,山本 有希							
到達目標								
芸術としての音楽表現を理解する。音楽文化の歴史的な流れを理解する。総合科学としての芸術の位置づけを理解する。								
ルーブリック								
		理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)		
評価項目 1	音楽実技と表現	楽曲の成り立ち（構造・作詞者・作曲家の意図）を理解して表現方法が考えられるようになること		周囲のメンバーの音・声を聴きながら合わせて演奏できるようになること		合唱・合奏の練習に参加しようという姿勢がみられない場合		
評価項目 2	観賞と音楽文化	その時代、その地域などの社会的背景と音楽文化との関りが考えられるようになること		音楽を聴いて、楽曲の特徴がわかるようになること		芸術作品を鑑賞しようという姿勢が見られない場合		
学科の到達目標項目との関係								
ディプロマポリシー 3								
教育方法等								
概要	歌唱・合唱(新型コロナウイルス感染防止のため、中止になる可能性有り)、器楽(リコーダー演奏)、あるいは音楽作品の鑑賞を実施する。							
授業の進め方・方法	実技及び鑑賞を実施する 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する復習をする。							
注意点	準備するノートは普通のノートでよい。(音楽用五線譜ノートは不要)							
授業の属性・履修上の区分								
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		授業の進め方、芸術表現とは、総合科学としての芸術音楽について理解する			
		2週	ヨーロッパの芸術歌曲		野ばら（シューベルト）を原語で歌う。詩の構造・特徴を生かした表現			
		3週	日本の歌曲（１）		夏の思い出（中田喜直）を二部合唱で歌う。合唱による音楽表現について学ぶ			
		4週	日本の歌曲（２）		荒城の月（滝廉太郎）を三部合唱で歌う。作詞者の思いを生かした音楽表現を学ぶ			
		5週	バロックの音楽		J.S.バッハのオルガン曲を題材にバロック時代の社会的背景と音楽様式を理解する			
		6週	古典派の音楽		ベートーヴェンの交響曲第６番「田園」を題材に音楽が民衆文化となってゆく過程を理解する			
		7週	器楽の基礎		音楽の構造・特徴を分析し、使用する楽器の演奏を性能を考慮し、アーティキュレーションを考える			
		8週	リコーダー合奏（１）		メッツガーのアンダンティーノを題材にバロック音楽をバロックの様式で演奏する			
	4thQ	9週	リコーダー合奏（２）		現代におけるリコーダーの使われ方を様々な音楽を通して学ぶ			
		10週	ロマン派の音楽		ショパンのマズルカ(Op.7-5)を通してロマン派音楽における民族的素材の取り入れられ方を学ぶ			
		11週	国民楽派の音楽		チャイコフスキーのくるみ割り人形を通して、音楽が益々民衆文化になってゆく過程を学ぶ			
		12週	近代の音楽		ドビュッシーの「海」を題材に音楽が他の分野の芸術と融合してゆく過程を学ぶ			
		13週	現代の音楽		ジャズなどの娯楽音楽と芸術音楽とのボーターレス化が進む過程を学ぶ			
		14週	音楽づくり		音楽は創作芸術としての面だけでなく再生芸術としての側面があることを自由曲の演習を通して学ぶ			
		15週	期末試験		演習発表			
		16週	民族音楽		民族音楽・民族文化がその土地の地理・歴史・生活文化等の関連が深いことを学ぶ			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	30	30	0	0	0	40	100	

基礎的能力	30	30	0	0	0	40	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	美術
科目基礎情報						
科目番号	0014		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	高校生の美術1、各種画集、技法書、デザイン集など					
担当教員	山本 有希,河合 雅子					
到達目標						
美的判断力、審美眼、人間理解、研究心などを育てる体験。 想像力を働かせ、感性豊かなイメージを創出する力。 創造的・独創的な発想能力、表現しながら練り上げていく能力、材料や形式に挑戦や工夫をしていく能力を伸ばす。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目 1 知識・技能		各題材を深く観察、理解し、表現の工夫をしている。		各題材を理解し、表現している。		各題材の理解が浅く、表現に工夫がない。
評価項目2 考・判断・表現	思	各題材を深く観察、理解し、独創的な表現をしている。		各題材を理解し、的確な表現をしている。		各題材の理解が浅く、独創的な表現がない。
評価項目3 主体的に取り組む態度		各題材を深く観察、理解し、主体的に制作している。		各題材を理解し、主体的に制作している。		各題材の理解が浅く、主体的に制作していない。
学科の到達目標項目との関係						
ディプロマポリシー 3						
教育方法等						
概要	美術の幅広い創作活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。					
授業の進め方・方法	表現が中心であるが、一般的基礎知識として最低限の美術史的知識は必要であり、美術史全体を俯瞰できることが表現や鑑賞に役立つ事を知る。 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと （授業外学習・事前）授業内容を予習しておく。 （授業外学習・事後）授業内容に関する課題を解く。					
注意点	上手下手にとらわれず、自己の個性に基づいた考えや心を形、色、材料などによって表現する。自分にしか表現できない作品、世界で唯一の作品を制作する。道具は正しい使い方をし、自身の物、貸し出しの物の隔てなく丁寧に扱い片付けを行うこと。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	・ガイダンス ・鉛筆によるデッサン 「手を描く」		・「美術とは何か」について考える。 ・自分の手の持つ表情をとらえ、観察しながら表し方を工夫する。	
		2週	・鉛筆によるデッサン 「手を描く」		・対象を深く観察し、形態、明暗、量感、質感等をつかんで表現する。 ・完成後、講評を行う。	
		3週	・観賞 「作家探求①」		・作品を通して造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情と創造的な表現の工夫について考える。	
		4週	・鉛筆によるデッサン 「自画像」		・自己を外面と内面の両方から見つめ「何を描くか」を設定する。 ・完成後、講評を行う。	
		5週	・生活の中のデザイン ・色彩構成の基礎		・「飾る・伝える・使う・環境」など生活の中のデザインの役割を理解する。 ・色彩の性質や構図の効果について学ぶ。	
		6週	・文字のデザイン		・レタリングの基礎について学ぶ。 ・漢字を一文字選び、構図や配色のアイディアを練る。	
		7週	・文字のデザイン		・アクリル絵の具で着彩し完成させる。 ・完成後、講評を行う。	
		8週	・観賞 「立体表現の魅力」		・立体表現のよさや特性について考え、彫刻への理解を深める。	
	4thQ	9週	・粘土による仮面制作		・自己の内面を見つめ、制作のテーマを設定する。	
		10週	・粘土による仮面制作		・顔の特徴を生かした独自の表現を追求し、表情豊かな仮面を構想する。	
		11週	・粘土による仮面制作		・表情が生きる効果的な配色を考え、着彩する。 ・完成後、講評を行う。	
		12週	・観賞 「作家探求②」		・作品を通して造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情と創造的な表現の工夫について考える。	
		13週	・イラストレーション		・与えられたテーマに沿って構図や配色を工夫し、アイディアスケッチを完成させる。	
		14週	・イラストレーション		・アクリル絵の具等の描画材料を用い制作する。コラージュ等のモダンテクニックも可とする。	

		15週	・イラストレーション		・完成後、講評を行う。			
		16週	・制作作品の講評会 ・成績評価・確認		・自作作品を自己評価する。 ・出欠の確認、作品提出の確認をする。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	60	0	0	40	0	100	
基礎的能力	0	60	0	0	40	0	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	環日本海諸国語 I B(中国語)	
科目基礎情報							
科目番号	0015			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	「LL中国語入門」大修館書店, 「中国語はじめの一歩」白水社						
担当教員	星野 朱美						
到達目標							
(1) 目標 ①子音, 母音と簡単な単語の発音ができ, ピンインを見て発音ができるようになることを目指す。 ②発音を聞いて, 正確に発音記号を書き取れるようになることを目指す。 ③簡単な会話を聞き取れ, かつ, 正確に答えられるようになることを目指す。							
(2) 概要 中国語に興味を持つような授業を行う。中国の文化, 習慣などを紹介する。中国語ピンインの習得を目的として, ピンインと漢字の書き方, 聞き取りの練習などを行う。各課終了ごとに, 理解度を把握するために小テストを実施する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	正確に発音記号 (ピンイン) を読める			発音記号 (ピンイン) を見て, 大体発音ができる。		発音記号 (ピンイン) を見て, 発音ができない。	
評価項目2	発音を聞いて, 正確に発音記号を書き取れる。			発音を聞いて, 大体発音記号を書き取れる。		発音を聞いて発音記号を書き取れない。	
評価項目3	基本的な文法構造を理解し, 正確に和文中訳ができる。			基本的な文法構造を理解し, 大体和文中訳ができる。		基本的な文法構造を理解でない, 殆ど和文中訳もできない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1) 目標 子音, 母音と簡単な単語の発音ができ, ピンインを見て発音ができるようになることを目指す。 (2) 概要 中国語に興味を持つような授業を行う。中国の文化, 習慣などを紹介する。中国語ピンインの習得を目的として, ピンインと漢字の書き方, 聞き取りの練習などを行う。各課終了ごとに, 理解度を把握するために小テストを実施する。						
授業の進め方・方法	・ 予習, 復習, 課題を前提とし, 講義を中心に進める。 ・ 1人1人の学生の発音を確認しながら講義を進める。						
注意点	<追認試験> 評価が50点に満たない者は, 願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果, 単位の修得が認められた者にあつては, その評価を50点とする。評価方法および評価基準は本試験と同じとする。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	第10課 (1)		・ 複合母音4の発音ができるようにする。		
		2週	第10課 (3)		・ 舌歯音の発音ができるようにする。 ・ 復習と確認テスト		
		3週	第11課 (1)		・ そり舌音 1の発音ができるようにする。		
		4週	第1課 (1)		"是"の文法は理解ができるようにする。		
		5週	第 2 課 (1)		指示代名詞の文を理解ができるようにする。 ・ 確認テスト		
		6週	第 2 課 (2)		・ 答え合わせ		
		7週	総合復習		総合復習		
		8週	後期中間試験		1回から6回までの講義内容について, 筆記試験を実施する。		
	4thQ	9週	成績評価・確認		期末試験の成績確認		
		10週	第3課 (1)		動詞の文を理解ができるようにする。		
		11週	第4課 (1)		形容詞の文を理解ができるようにする。		
		12週	第4課 (3)		・ 答え合わせ ・ 復習と確認テスト		
		13週	第5課 (1)		日付の表現の文を理解ができるようにする。		
		14週	第5課 (1)		時刻の表現の文を理解ができるようにする。		
		15週	期末試験		9回から14回までの講義内容について, 筆記試験を実施する。		
		16週	成績評価・確認		期末試験の成績確認		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	合計

総合評価割合	90	0	0	0	0	10	100
基礎的能力	90	0	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	環日本海諸国語 I B(ロシア語)	
科目基礎情報							
科目番号	0017		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	"ПОЕХАЛИ!" ("Let's go!") 1-1、その他、別途指示する						
担当教員	山本 有希						
到達目標							
(1)アルファベットの読み書きを修得する (2)名詞等の性数変化の概念、動詞人称変化を理解する (3)単位認定には50点以上を必要とする							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	名詞の性別、格変化の概念及び動詞の活用が8割以上理解できる。		名詞の性別、格変化の概念及び動詞の活用が6割以上理解できる。		名詞の性別、格変化の概念及び動詞の活用における理解度が6割に達しない。		
評価項目2	上記文法事項を活用した作文及び文章読解がスムーズにできる。		上記文法事項を活用した作文及び文章読解ができる。		上記文法事項を活用した作文及び文章読解が満足にできない。		
評価項目3	ペアワークやグループワークにおいて、積極的に表現を考え、発表することが良くできる。		ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができる。		ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	【授業の目標と概要】 (目標) ロシア語の音読や会話を中心に、広くロシア社会・文化等への関心を養う。 (概要) ロシア文字の発音、名詞・形容詞等の性数変化、動詞の現在人称変化を用いた表現を修得する						
授業の進め方・方法	教員単独による講義と演習 事前に行う準備学習：講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習すること。						
注意点	(授業改善策) 学生の理解度を確認しながら授業を進めるよう努める。 評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受験することができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者については、その評価を50点とする。 (備考) 1)遅刻3回で欠課1時間とする 2)授業計画は、学生の理解度に応じて変更することがある 3)定期試験 (中間試験及び期末試験)を80点、その他(発表、課題、小テストなど)を20点として評価する						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	1)ガイダンス 2)オリエンテーション		環日本海諸国語についての概説(1)		
		2週	オリエンテーション		環日本海諸国語についての概説(2)		
		3週	オリエンテーション		環日本海諸国語についての概説(3)		
		4週	オリエンテーション		環日本海諸国語についての概説(4)		
		5週	オリエンテーション		環日本海諸国語についての概説(5)		
		6週	第1、2、12課		アルファベットの発音を学び、挨拶表現ができる		
		7週	第3課		場所を尋ねる表現ができる。 人称代名詞を用いた表現ができる		
		8週	中間試験		中間試験は実施しない		
	4thQ	9週	第8課		名詞の複数形を学び、所有代名詞の性別と数の概念を理解し、表現できる		
		10週	第10課		所有代名詞の性別と数の概念を理解し、表現できる		
		11週	第4課～5課		動詞第1人称変化の活用形を覚え、主語述語の文章を作成できる。		
		12週	第4課～5課		動詞第2人称変化を覚え、特に「～語で話す」と話すことができる		
		13週	第4課～5課		動詞の人称変化を理解し、作文できる。		
		14週	第6、7、9課		人称代名詞の対格を用いて、自己紹介や「～が好き」といった表現をする子ができる		
		15週	期末試験		既習事項を確認する		
		16週	成績確認		1)試験返却・解説及び成績確認 2)夏休みの課題の確認		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	環日本海諸国語ⅡB(中国語)
科目基礎情報				
科目番号	0018	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科	対象学年	1	
開設期	後期	週時間数	2	
教科書/教材	「LL中国語入門」大修館書店, 「中国語ははじめの一步」白水社			
担当教員	星野 朱美			
到達目標				
(1) 子音, 母音と簡単な単語の発音ができ, ピンインを見て発音ができるようになることを目指す。				
(2) 発音を聞いて, 正確に発音記号を書き取れるようになることを目指す。				
(3) 簡単な会話を聞き取れ, かつ, 正確に答えられるようになることを目指す。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	発音記号(ピンイン)を見て, 正確に発音ができる。	発音記号(ピンイン)を見て, 大体発音ができる。	発音記号(ピンイン)を見て, 発音ができない。	
評価項目2	発音を聞いて, 正確に発音記号を書き取れる。	発音を聞いて, 大体発音記号を書き取れる。	発音を聞いて発音記号を書き取れない。	
評価項目3	正確に簡単な会話を聞き取れ, かつ, 正確に答えることができる。	簡単な会話を聞き取れ, かつ, 大体答えることができる。	簡単な会話を聞き取れなく, かつ, 殆ど答えることができない。	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	(1) 目標 ①子音, 母音と簡単な単語の発音ができ, ピンインを見て発音ができるようになることを目指す。 ②発音を聞いて, 正確に発音記号を書き取れるようになることを目指す。 ③簡単な会話を聞き取れ, かつ, 正確に答えられるようになることを目指す。 (2) 概要 中国語に興味を持つような授業を行う。中国の文化, 習慣などを紹介する。中国語ピンインの習得を目的として, ピンインと漢字の書き方, 聞き取りの練習などを行う。各課終了ごとに, 理解度を把握するために小テストを実施する。			
授業の進め方・方法	・予習, 復習, 課題を前提とし, 講義を中心に進める。 ・学生の発音を確認しながら講義を進める。			
注意点	<授業改善策> 学生の理解度を確認しながら, 発音の練習時間と課題を増やしたり, さらに中国語に興味を持つように工夫して, 学生の意欲を維持して行きたい。 <追認試験> 評価が50点に満たない者は, 願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果, 単位の修得が認められた者にあつては, その評価を50点とする。評価方法および評価基準は本試験と同じとする。			
授業の属性・履修上の区分				
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用	☒ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	第10課 (2)	舌歯音ができるように目指す。
		2週	第11課 (1)	・子音と捲舌母音ができるように目指す。
		3週	第1課	“是”の文は理解できるようにする。
		4週	第2課 (1)	指示代名詞を用いて簡単な会話を話せるようにする。
		5週	第 2 課 (2)	疑問詞を用いて, 簡単な会話を話せるようにする。 ・復習と確認テスト
		6週	総合復習	総合復習
		7週	口述試験	1回から6回までの講義内容について, 口述試験を実施する。
		8週	後期中間試験	筆記試験を実施する。
	4thQ	9週	成績評価・確認	期末試験の成績確認
		10週	第3課	動詞を用いて簡単な会話を話せるようにする。
		11週	第4 課 (2)	量詞の用いて, 簡単な会話を話せるようにする。
		12週	第4課 (2)	形容詞の文用いて, 簡単な会話を話せるようにする。
		13週	第5課 (1)	時刻の表現を用いて, 簡単な会話を話せるようにする。
		14週	第5課 (2)	日付の表現を用いて, 簡単な会話を話せるようにする。
		15週	口述試験	9回から14回までの講義内容について, 口述試験を実施する。
		16週	成績評価・確認	期末試験の成績確認
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	筆記試験	口述試験	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度（2024年度）		授業科目	環日本海諸国語ⅡB(ロシア語)	
科目基礎情報							
科目番号	0020		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	"ПОЕХАЛИ!" ("Let's go!") 1-1、その他別途指示する						
担当教員	山本 有希						
到達目標							
(1)アルファベットの読み書きを修得する (2)名詞等の性数変化の概念、動詞人称変化を理解する (3)単位認定には50点以上を必要とする							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	名詞の性別、格変化の概念及び動詞人称変化などの項目を活用した口頭表現がスムーズにできる。		名詞の性別、格変化の概念及び動詞人称変化などの項目を活用した口頭表現ができる。		名詞の性別、格変化の概念及び動詞人称変化などの項目を活用した口頭表現が満足にできない。		
評価項目2	上記文法事項を活用した口頭表現の発表がスムーズにできる。		上記文法事項を活用した口頭表現の発表ができる。		上記文法事項を活用した口頭表現の発表が満足にできない。		
評価項目3	ペアワークやグループワークにおいて、積極的に表現を考え、発表することが良くできる。		ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができる。		ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	【授業の目標と概要】 (目標) ロシア語の音読や会話を中心に、広くロシア社会・文化等への関心を養う。 (概要) ロシア文字の発音、名詞・形容詞等の性数変化、動詞の現在人称変化を用いた表現を修得する						
授業の進め方・方法	教員単独による講義と演習 事前に行う準備学習：講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習すること。						
注意点	<授業改善策> ・学生の理解度を質問等で確認しながら講義を行うよう努める。 ・評価が50点に満たない者は願い出により追認試験を受験することができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にあつては、その評価を50点とする <備考> 1)遅刻3回で欠課1時間とする 2)授業計画や評価項目及び評価割合は変更することがある 3)定期試験（中間試験及び期末試験）を70点、その他(発表、課題、小テストなど)を30点として評価する						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	第9～11課		名詞の前置格の用法を理解し、「～の上に」「～の中に」及び「私はモスクワに住んでいる」と話することができる		
		2週	第12課		述語表現と動詞過去形を学習し、「昨日、～した」と話することができる		
		3週	第13課		場所の表現及び、「(球技)をする」、「(楽器)を弾く」を学習し、話することができる		
		4週	第14課		対格を用いた目的語の用法を学習し、「～したい」と話することができる		
		5週	第15、16課		数詞、季節、天候、時間、時刻の表現方法を学習し、表現することができる		
		6週	第17～19課		1日の行動(起床～就寝)の表現及び形容詞の原級、最上級の用法学習し、表現できる		
		7週	中間試験		既習事項の確認を行う		
		8週	試験返却 第20、21課		試験の返却および解説 述語と副詞の用法を理解し、必要、禁止、許可の表現を修得する		
	4thQ	9週	第23課		話題やテーマの表現を修得する 「～について書く、話す」		
		10週	第24～26課		対格表現を覚え、目的語を表現できる		
		11週	第27、28課		形容詞の前置格を学習し、場所の表現に用いることができる		
		12週	第29課		運動の動詞を覚え、移動の様子を表現できる		
		13週	第30課		運動の動詞を覚え、移動の様子を表現できる		
		14週	まとめ		学習事項のまとめを行う		
		15週	期末試験		既習事項の確認を行う		

		16週	成績確認		1)成績評価・確認 2)授業評価アンケートの実施			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	70	20	0	0	0	10	100	
基礎的能力	70	20	0	0	0	10	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度（2024年度）		授業科目	環日本海諸国語ⅠA(ロシア語)
科目基礎情報						
科目番号	0022		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	"ПОЕХАЛИ!" ("Let's go!") 1-1、その他、別途指示する					
担当教員	山本 有希					
到達目標						
(1)アルファベットの読み書きを修得する (2)名詞等の性数変化の概念、動詞人称変化を理解する (3)単位認定には50点以上を必要とする						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1	名詞の性別、格変化の概念及び動詞の活用が8割以上理解できる。		名詞の性別、格変化の概念及び動詞の活用が6割以上理解できる。		名詞の性別、格変化の概念及び動詞の活用における理解度が6割に達しない。	
評価項目2	上記文法事項を活用した作文及び文章読解がスムーズにできる。		上記文法事項を活用した作文及び文章読解ができる。		上記文法事項を活用した作文及び文章読解が満足にできない。	
評価項目3	ペアワークやグループワークにおいて、積極的に表現を考え、発表することが良くなる。		ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができる。		ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
ディプロマポリシー 3						
教育方法等						
概要	【授業の目標と概要】 (目標) ロシア語の音読や会話を中心に、広くロシア社会・文化等への関心を養う。 (概要) ロシア文字の発音、名詞・形容詞等の性数変化、動詞の現在人称変化を用いた表現を修得する					
授業の進め方・方法	教員単独による講義と演習 事前に行う準備学習：講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習すること。					
注意点	(授業改善策) 学生の理解度を確認しながら授業を進めるよう努める。 評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受験することができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にとっては、その評価を50点とする。 (備考) 1)遅刻3回で欠課1時間とする 2)授業計画は、学生の理解度に応じて変更することがある 3)定期試験（中間試験及び期末試験）を70点、その他(発表、課題、小テストなど)を30点として評価する					
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1)ガイダンス 2)オリエンテーション		環日本海諸国語についての概説(1)	
		2週	オリエンテーション		環日本海諸国語についての概説(2)	
		3週	オリエンテーション		環日本海諸国語についての概説(3)	
		4週	オリエンテーション		環日本海諸国語についての概説(4)	
		5週	オリエンテーション		環日本海諸国語についての概説(5)	
		6週	第1、2、12課		アルファベットの発音を学び、挨拶表現ができる	
		7週	第3課		場所を尋ねる表現ができる。 人称代名詞を用いた表現ができる	
		8週	第4課		動詞第1人称変化を覚え、「～している、～する」という動作を表現できる	
	2ndQ	9週	第4課		動詞第1人称変化を覚え、「～している、～する」という動作を表現できる	
		10週	中間試験		中間試験は実施しない	
		11週	第5課		動詞第2人称変化を覚え、特に「～語で話す」と話すことができる	
		12週	第5課		動詞第2人称変化を覚え、特に「～語で話す」と話すことができる	
		13週	第6、7、9課		人称代名詞の対格を用いて、自己紹介や「～が好き」といった表現をする子ができる	
		14週	第8、10課		名詞の複数形を学び、所有代名詞の性別と数の概念を理解し、表現できる	
		15週	期末試験		既習事項を確認する	
		16週	成績確認		1)試験返却・解説及び成績確認 2)夏休みの課題の確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	環日本海諸国語ⅠA(中国語)	
科目基礎情報							
科目番号	0024			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科			対象学年	1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	「LL中国語入門」大修館書店, 「中国語はじめての一步」白水社						
担当教員	星野 朱美						
到達目標							
(1) 目標							
①子音, 母音と簡単な単語の発音ができ, ピンインを見て発音ができるようになることを目指す。							
②発音を聞いて, 正確に発音記号を書き取れるようになることを目指す。							
③簡単な会話を聞き取れ, かつ, 正確に答えられるようになることを目指す。							
(2) 概要							
中国語に興味を持つような授業を行う。中国の文化, 習慣などを紹介する。中国語ピンインの習得を目的として, ピンインと漢字の書き方, 聞き取りの練習などを行う。各課終了ごとに, 理解度を把握するために小テストを実施する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	正確に発音記号 (ピンイン) を読める			発音記号 (ピンイン) を見て, 大体発音ができる。		発音記号 (ピンイン) を見て, 発音ができない。	
評価項目2	発音を聞いて, 正確に発音記号を書き取れる。			発音を聞いて, 大体発音記号を書き取れる。		発音を聞いて発音記号を書き取れない。	
評価項目3	基本的な文法構造を理解し, 正確に和文中訳ができる。			基本的な文法構造を理解し, 大体和文中訳ができる。		基本的な文法構造を理解でない, 殆ど和文中訳もできない。	
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 3							
教育方法等							
概要	1) 目標 子音, 母音と簡単な単語の発音ができ, ピンインを見て発音ができるようになることを目指す。 (2) 概要 中国語に興味を持つような授業を行う。中国の文化, 習慣などを紹介する。中国語ピンインの習得を目的として, ピンインと漢字の書き方, 聞き取りの練習などを行う。各課終了ごとに, 理解度を把握するために小テストを実施する。						
授業の進め方・方法	・ 予習, 復習, 課題を前提とし, 講義を中心に進める。 ・ 1人1人の学生の発音を確認しながら講義を進める。						
注意点	<追認試験> 評価が50点に満たない者は, 願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果, 単位の修得が認められた者にとっては, その評価を50点とする。評価方法および評価基準は本試験と同じとする。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	環日本海諸国語 (中国語) のオリエンテーション1				
		2週	環日本海諸国語 (中国語) のオリエンテーション1				
		3週	環日本海諸国語 (中国語) のオリエンテーション1				
		4週	第1課 (1)		・ シラバスの説明 ・ 母音(a,o,e)と子音(l,u)と音節の発音ができるようにする。		
		5週	第2課 (1)		母音(a,o,e), 子音(l,u, m)と音節の発音ができるようにする。		
		6週	第3課(1)		・ 母音(i,u), 子音(n,f)と音節の発音ができるようにする		
		7週	第5課 (1)		複合母音1, 有気音と無気音の発音ができるようにする 復習と確認テスト		
		8週	第6課 (1)		複合母音2の発音ができるようにする。		
	2ndQ	9週	第6課 (3)		復習と確認テスト		
		10週	第7課 (1)		複合母音3の発音ができるようにする。 テスト		
		11週	第7課 (3)		復習と確認テスト		
		12週	第9課 (1)		複合母音4の発音できるようにする。		
		13週	第9課 (3)		複合母音5の発音ができるようにする。		
		14週			総合復習		
		15週	期末試験		4週から14週までの講義内容について, 筆記試験及び口述試験を実施する。		
		16週	成績評価・確認		期末試験の成績確認		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	合計
総合評価割合	90	0	0	0	0	10	100
基礎的能力	90	0	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英会話 I B	
科目基礎情報							
科目番号	0025		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1			
開設期	通年		週時間数	2			
教科書/教材	Communication Spotlight: Business 1; American Headway 1A (3rd edition)						
担当教員	大場 エリザベス,リ オリガ						
到達目標							
1. To develop strategies and methods to improve English communication through targeted speaking activities. 2. To develop Motivation and Confidence to communicate in English through meaningful and relevant teaching materials and course content. 3. To increase vocabulary, useful phrases and expressions. 4. To improve reading, writing and listening skills through targeted activities in the textbook.							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安 Ideal Level of Achievement (Very Good) 80%		標準的な到達レベルの目安 Standard Level of Achievement (Good) 50%		未到達レベルの目安 Poor Level of Achievement (Fail) <50%	
評価項目1 English: Pronunciation, intonation, rhythm, stress, linking		Student clearly displays a high level of control of English.		Student partially displays moderate control of English.		Student displays a low control of English.	
評価項目2 Communication and Conversation		Student clearly displays a high level to communicate ideas/opinions clearly and effectively. Actively engages in conversation and makes efforts to move the conversation forward.		Student displays a moderate level to communicate ideas/opinions clearly and effectively. Occasionally, engages in conversation and makes some effort to move the conversation forward.		Student displays a low level to communicate ideas/opinions clearly and effectively. Seldom engages in conversation and makes little effort to move the conversation forward.	
評価項目3 Grammar in Conversation		Student produces language with a high level of accuracy of grammatical and lexical structures.		Student produces language with a moderate level of accuracy of grammatical and lexical structures.		Student produces language with a low level of accuracy of grammatical and lexical structures.	
Delivery: Confidence, Memory, Eye-contact, Physical Message		Student displays a high level of control and effectively executes all items of Delivery.		Student displays a moderate level of control and effectively executes all items of Delivery.		Student displays a low level of control and effectively executes all items of Delivery.	
Textbook Contents: grammar, listening, reading, and computer exercises		Student clearly displays a high level of understanding of the textbook contents and computer assisted exercises		Student displays a moderate level of understanding of the textbook contents and computer assisted exercises		Student displays a low level of understanding of the textbook contents and computer assisted exercises	
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 3							
教育方法等							
概要	Introduction of useful vocabulary and expressions including word chunks to conduct basic English conversations in everyday life and business settings on a variety of targeted Topics and Issues. Targeted speaking and presentation activities will be conducted in conjunction with the contents of the textbook and additional online materials.						
授業の進め方・方法	teacher-student lecture form, pair-work, group-workによるtask-based learning, group-based learning.						
注意点	Assignments must be turned in by the specified deadline (if any). Students not present in class should inform the teacher. Make up exams or missed deadlines should be discussed with the teacher. This syllabus is subject to change. If the student didn't meet the overall minimal level of achievement for a grade (50%) at the end of the school year, then the student can take a make-up exam at the beginning of the next school year to reach the minimal level.						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Introduction and orientation		Personal Introductions; Outline of class and expectation of students		
		2週	Unit 1: Nice to meet you		Introducing people; weak vowels		
		3週	Unit 1: Nice to meet you		Stop and ask; Names Online homework		
		4週	Unit 2: Where do you work?		Describing companies; linking sounds		
		5週	Unit 2: Where do you work?		Building conversations, The handshake Online homework		
		6週	Unit 3: Can I have your name, please?		Telephone conversations; sentence stress		
		7週	Unit 3: Can I have your name, please?		Repeating key information, cell phone talk Online homework		
		8週	MIDTERM		Unit 1-3 writing test		
	2ndQ	9週	Unit 4: I am a sales rep		Describing occupations; weak vowels		
		10週	Unit 4: I am a sales rep		Using examples, eye contact Online homework		

後期		11週	Unit 5: They work in shifts	Describing time and schedules; linking sounds
		12週	Unit 5: They work in shifts	Asking about meaning, smoking Online homework
		13週	Unit 6: How's business?	Making small talk; disappearing sounds
		14週	Unit 6: How's business?	Building conversations, small talk Online homework
		15週	FINAL	Unit 4-6 writing test
		16週	Explanation of grade assessment	Review Final test with students
	3rdQ	1週	Summer vacation report; games	fun activities
		2週	Unit 7: How many employees are there?	Working with large numbers; weak vowels
		3週	Unit 7: How many employees are there?	Asking questions, lucky numbers Online homework
		4週	Unit 8: It was a long day	Describing past work; blended sounds
		5週	Unit 8: It was a long day	Paraphrasing, business meetings Online homework
		6週	Unit 9: Can you send me that file?	Explaining procedures; sentence stress
		7週	Unit 9: Can you send me that file?	Shadowing, Turn-talking Online homework
		8週	MIDTERM	Unit 7-9 writing test
	4thQ	9週	Unit 10: It's in the filing cabinet	Describing location; linking sounds
		10週	Unit 10: It's in the filing cabinet	Repeating key information, gestures Online homework
		11週	Unit 11: This is good! What is it?	Describing food; weak vowels
		12週	Unit 11: This is good! What is it?	Talking around words, politeness Online homework
		13週	Unit 12: She's going to give a presentation	Describing future plans; casual English: gonna
		14週	Unit 12: She's going to give a presentation	Asking questions, outfits Online homework
		15週	FINAL	Unit 10-12 writing test
		16週	Explanation of grade assessment	Review Final test with students

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	中間試験 1	期末試験 1	中間試験 2	期末試験 2	その他	合計
総合評価割合	25	25	25	25	0	100
基礎的能力; writing test	20	20	20	20	0	80

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	環日本海諸国語ⅡA(中国語)	
科目基礎情報							
科目番号	0026		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年		1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	「LL中国語入門」大修館書店, 「中国語ははじめの一步」白水社						
担当教員	星野 朱美						
到達目標							
(1) 子音, 母音と簡単な単語の発音ができ, ピンインを見て発音ができるようになることを目指す。							
(2) 発音を聞いて, 正確に発音記号を書き取れるようになることを目指す。							
(3) 簡単な会話を聞き取れ, かつ, 正確に答えられるようになることを目指す。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		発音記号 (ピンイン) を見て, 正確に発音ができる。		発音記号 (ピンイン) を見て, 大体発音ができる。		発音記号 (ピンイン) を見て, 発音ができない。	
評価項目2		発音を聞いて, 正確に発音記号を書き取れる。		発音を聞いて, 大体発音記号を書き取れる。		発音を聞いて発音記号を書き取れない。	
評価項目3		正確に簡単な会話を聞き取れ, かつ, 正確に答えることができる。		簡単な会話を聞き取れ, かつ, 大体答えることができる。		簡単な会話を聞き取れなく, かつ, 殆ど答えることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 3							
教育方法等							
概要		(1) 目標 ①子音, 母音と簡単な単語の発音ができ, ピンインを見て発音ができるようになることを目指す。 ②発音 を聞いて, 正確に発音記号を書き取れるようになることを目指す。 ③簡単な会話 を聞き取れ, かつ, 正確に答えられるようになることを目指す。 (2) 概要 中国語に興味を持つような授業を行う。中国の文化, 習慣などを紹介する。中国語ピンインの習得を目的として, ピンインと漢字の書き方, 聞き取りの練習などを行う。各課終了ごとに, 理解度を把握するために小テストを実施する。					
授業の進め方・方法		・ 予習, 復習, 課題を前提とし, 講義を中心に進める。 ・ 各学生の発音を確認しながら講義を進める。					
注意点		<授業改善策> 学生の理解度を確認しながら, 発音の練習時間と課題を増やしたり, さらに中国語に興味を持つように工夫して, 学生の意欲を維持して行きたい。 <追認試験> 評価が50点に満たない者は, 願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果, 単位の修得が認められた者については, その評価を50点とする。評価方法および評価基準は本試験と同じとする。					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	環日本海諸国語 (中国語) のオリエンテーション 1		講義の進め方や成績評価の方法を説明する。		
		2週	環日本海諸国語 (中国語) のオリエンテーション 1		中国語の子音と単母音を紹介する。		
		3週	環日本海諸国語 (中国語) のオリエンテーション 1		複合母音と簡単な文法構成などを紹介する。		
		4週	第 1 課 (2)		母音(a)と子音(m)の学習 ・ 母音(a,o,e), 子音(l,u)と音節の学習		
		5週	第2課 (2)		・ 母音(a)と子音(m)の学習 ・ 母音(a,o,e), 子音(l,u)と音節の学習		
		6週	第 3 課(2)		・ 母音(i,u), 子音(n,f)と音節の学習 ・ 復習と確認テスト		
		7週	第 5 課 (2)		複合母音 1, 有気音と無気音の学習		
		8週	第 6 課 (1)		・ 複合母音 2, 確認テスト		
	2ndQ	9週	第 6 課 (3)		復習と確認テスト		
		10週	第 7 課 (1)		複合母音 3, テスト		
		11週	第 7 課 (3)		復習と確認テスト		
		12週	第9課 (1)		・ 複合母音4		
		13週	第9課 (3)		復習と確認テスト		
		14週			総合復習		
		15週	期末試験		4週から14週までの講義内容について, 筆記試験及び口述試験を実施する。		
		16週	成績評価・確認		期末試験の成績確認		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	筆記試験	口述試験	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	環日本海諸国語ⅡA(ロシア語)	
科目基礎情報							
科目番号	0028		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	"ПОЕХАЛИ!" ("Let's go!") 1-1、その他、別途指示する						
担当教員	山本 有希						
到達目標							
(1)アルファベットの読み書きを修得する (2)名詞等の性数変化の概念、動詞人称変化を理解する (3)単位認定には50点以上を必要とする							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	名詞の性別、格変化の概念及び動詞人称変化などの項目を活用した口頭表現がスムーズにできる。		名詞の性別、格変化の概念及び動詞人称変化などの項目を活用した口頭表現ができる。		名詞の性別、格変化の概念及び動詞人称変化などの項目を活用した口頭表現が満足にできない。		
評価項目2	上記文法事項を活用した口頭表現の発表がスムーズにできる。		上記文法事項を活用した口頭表現の発表ができる。		上記文法事項を活用した口頭表現の発表が満足にできない。		
評価項目3	ペアワークやグループワークにおいて、積極的に表現を考え、発表することが良くできる。		ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができる。		ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 3							
教育方法等							
概要	【授業の目標と概要】 (目標) ロシア語の音読や会話を中心に、広くロシア社会・文化等への関心を養う。 (概要) ロシア文字の発音、名詞・形容詞等の性数変化、動詞の現在人称変化を用いた表現を修得する						
授業の進め方・方法	教員単独による講義と演習 事前に行う準備学習：講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習すること。						
注意点	<授業改善策> ・学生の理解度を質問等で確認しながら講義を行うよう努める。 ・評価が50点に満たない者は願い出により追認試験を受験することができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にあつては、その評価を50点とする <備考> 1)遅刻3回で欠課1時間とする 2)授業計画や評価項目及び評価割合は変更することがある 3)定期試験（中間試験及び期末試験）を70点、その他(発表、課題、小テストなど)を30点として評価する						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1)ガイダンス 2)オリエンテーション		環日本海諸国語についての概説(1)		
		2週	オリエンテーション		環日本海諸国語についての概説(2)		
		3週	オリエンテーション		環日本海諸国語についての概説(3)		
		4週	オリエンテーション		環日本海諸国語についての概説(4)		
		5週	オリエンテーション		環日本海諸国語についての概説(5)		
		6週	第1、2、12課		アルファベットの発音を学び、挨拶表現ができる		
		7週	第3課		場所を尋ねる表現ができる。 人称代名詞を用いた表現ができる		
		8週	第4課		動詞第1人称変化を覚え、「～している、～する」という動作を表現できる		
	2ndQ	9週	第4課		動詞第1人称変化を覚え、「～している、～する」という動作を表現できる		
		10週	中間試験		中間試験は実施しない		
		11週	第5課		動詞第2人称変化を覚え、特に「～語で話す」と話すことができる		
		12週	第5課		動詞第2人称変化を覚え、特に「～語で話す」と話すことができる		
		13週	第6、7、9課		人称代名詞の対格を用いて、自己紹介や「～が好き」といった表現をする子ができる		
		14週	第8、10課		名詞の複数形を学び、所有代名詞の性別と数の概念を理解し、表現できる		
		15週	期末試験		既習事項を確認する		
		16週	成績確認		1)試験返却・解説及び成績確認 2)夏休みの課題の確認		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	0	0	0	10	100
基礎的能力	70	20	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高専専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学ⅠA	
科目基礎情報							
科目番号	0033			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科			対象学年	1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	新基礎数学 改訂版 大日本図書，新基礎数学 問題集 改訂版 大日本図書，新課程練習ドリル 数学Ⅰ 標準編 数研出版、新課程練習ドリル 数学Ⅱ 標準編 数研出版						
担当教員	櫻井 秀人,新夕 義典						
到達目標							
多項式の和差積が計算できる。 基本的な因数分解ができる。 絶対値・平方根の基本的な計算ができる。 2次方程式を解くことができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		整式・有理式の四則演算（因数分解，商と余りを求めることを含む）の問題を解くことができる。		整式・有理式の四則演算（因数分解，商と余りを求めることを含む）の基本的な問題を解くことができる。		整式・有理式の四則演算（因数分解，商と余りを求めることを含む）の基本的な問題を解くことができない。	
評価項目2		公式を用いて多項式の因数分解の問題を解くことができる。		公式を用いて多項式の因数分解の基本的な問題を解くことができる。		公式を用いた因数分解ができない。	
評価項目3		因数定理を用いて，高次式の因数分解の問題を解くことができる。		因数定理を用いて，高次式の因数分解の基本的な問題を解くことができる。		高次式の因数分解の基本的な問題を解くことができない。	
評価項目4		2次方程式の解を求めることができる。		基本的な問題において2次方程式の解を求めることができる。		2次方程式の解を求めることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 3							
教育方法等							
概要	整式（多項式）の演算等を通して文字式の取り扱いに慣れることにより，対象を抽象的に扱う方法を学ぶ。また，数の基礎になる実数の概念を学び，絶対値・平方根の取り扱いに習熟する。2次方程式の解について学ぶ。						
授業の進め方・方法	教員単独による講義及び演習 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと （授業外学習・事前）授業内容を予習しておく。 （授業外学習・事後）授業内容に関する課題を解く。						
注意点	本科目では，50点以上の評価で単位を認定する。 評価が50点に満たない者は，願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果，単位の修得が認められた者にとっては，その評価を50点とする。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 整式の加法，減法，		等式の性質を確認する。単項式，多項式の加法，減法ができる。		
		2週	整式の乗法		整式の積を分配法則を用いて展開することができる。 公式を用いて展開することができる。		
		3週	整式の乗法，因数分解		公式を用いて因数分解をすることができる		
		4週	整式の乗法，因数分解		公式を用いて因数分解をすることができる		
		5週	因数分解，整式の除法		いろいろな整式の因数分解ができる。		
		6週	整式の除法		整式の除法で，商と余りを求めることができる。		
		7週	剰余の定理，因数定理		剰余の定理，因数定理を理解し整式の計算に応用することができる。		
		8週	中間試験		1回から7回までの講義内容について，中間試験を実施する。		
	2ndQ	9週	高次式の因数分解		因数定理を用いて，高次式の因数分解ができる。		
		10週	分数式		分数式の四則演算ができる。		
		11週	実数		実数の定義を理解できる。絶対値を含む式の計算ができる。		
		12週	平方根，複素数		平方根，根号について学び，根号を含む式を計算できる。複素数の概念を理解し，四則演算ができる。		
		13週	複素数		複素数の概念を理解し，四則演算ができる。		
		14週	2次方程式		2次方程式を公式を用いて解くことができる。		
		15週	期末試験		第9回以降の講義内容の理解度を測るため，期末試験を行う。		
		16週	復習		期末試験の結果を受けて，定着度の低い事項について復習する。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	演習・提出物	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	理科 I A	
科目基礎情報							
科目番号	0034			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科			対象学年	1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	化学基礎(実教出版), フォローアップ化学基礎(数研出版), ベストフィット化学基礎(実教出版), フォトサイエンス化学図録(数研出版)						
担当教員	寺崎 由紀子						
到達目標							
1. 日常生活と化学の関わりについて知る。 2. 物質の構成や構成粒子について理解し、だいたいの化学式が書ける。また、物質を構成している結合について理解できる。 3. 物質量について理解し、基本的な問題が解ける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
物質の成り立ち	純物質と混合物, 単体と化合物の違いについて説明できる。 混合物を分離する方法について, 物質によって使い分けができる。			純物質と混合物, 単体と化合物の違いについて理解している。 混合物を分離する方法について理解している。		純物質と混合物, 単体と化合物の違いについて理解していない。 混合物を分離する方法がわからない。	
物質の構成と化学結合	物質の構成や構成粒子について理解し, 実際の物質から予想することができる。 ほとんどの化学式を書くことができる。 さまざまな結合について理解し, 説明することができる。 結晶の特徴や性質を理解し, 実際の物質から説明することができる。			物質の構成や構成粒子について理解している。 だいたいの化学式が書ける。 物質を構成している結合について理解している。 いろいろな結晶について特徴や性質を理解している。		構成粒子に関する基本的事項を理解していない。 化学式が書けない。 いろいろな結合について理解していない。 結晶の特徴を理解していない。	
物質量	物質量について理解し, いろいろな組み合わせた問題が解ける。			物質量について理解し, 基本的な問題が解ける。		物質量について理解していない。	
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 3							
教育方法等							
概要	この授業では, これから学ぶ化学の基礎となる事項を学習する。まず, 物質を微視的な立場から見たときに, 原子・分子・イオンから成り立っていることを学習する。その後, マクロ的な立場から見た化学反応が微視的な分子やイオンの変化であることや, その量的な関係を捉えるために基本的事項を学習する。						
授業の進め方・方法	教員単独による講義, 演習, 実験を行う。 学生の理解度により, 授業計画を変更することがある。 授業外学習・事前: 授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後: 復習を兼ねて課題に取り組むこと。						
注意点	内容の定着のため, 小テスト, 課題(宿題)などを課す。これらは提出物点として評価する。 実験や視聴覚教材を取り入れることがある。 評価が50点に満たない者は, 願い出により追認試験を受けることができる。 追認試験を受けるにあたって課題を課すことがある。 課題への取り組みが教員の求める水準に到達していない場合は追認試験の受験を認めない。 追認試験の結果, 単位の修得が認められた者にとっては, その評価を50点とする。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
必履修							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 実験を安全に行うために		シラバスに基づき, 授業の方針や計画等について説明をする。その後, 実験に関する注意事項を説明する。		
		2週	物質の分離と精製		物質は純物質と混合物に分類できることを理解する。 また, 混合物から純物質を得る方法のいくつかを知る。		
		3週	物質の成り立ち 原子の構造		物質の構成や物質の基本成分である元素について学習する。その後, 物質の構成粒子の中で最小の粒子である原子の構造について学ぶ。		
		4週	電子配置 元素の周期表		電子配置と価電子について理解する。また, 価電子と元素の性質の関係について学ぶ。その後, 元素の周期表の歴史を学び, 周期表から原子のある程度の性質が予測できることを学ぶ。		
		5週	イオンの生成 イオン結合 組成式		イオンと電子配置の関係について学習する。その後, 多原子イオンや化学式の表し方を学ぶ。その後, イオンが集まったときの特徴, 表し方について学習する。		
		6週	【実験】混合物の分離		蒸留, ろ過について実験を行う。		
		7週	共有結合 分子		共有結合の仕方, 共有結合によってできる分子について学ぶ。		
		8週	中間試験		原子・分子・イオンの構造などに関する基本的事項について出題する。		

2ndQ	9週	試験の解答・解説 物質の三態と熱運動	中間試験の答案を返却し、解答・解説することで理解できていないところを確認する。その後、物質には3つの状態があり、それぞれ粒子の熱運動の仕方が違うことを学習する。
	10週	分子の極性と分子間力	原子の電子の引きつけやすさの違いによって電子のかたよりが生じることについて学ぶ。また、分子の形によって極性が生じること、その結果物質の性質に影響が及ぶことについて学習する。
	11週	共有結合の結晶 金属結合	結合の仕方の違いによるそれぞれの結晶の特徴について学習する。
	12週	原子量・分子量・式量	極小である原子の質量が、原子量という相対質量を取り入れることによって扱いやすくなることを学ぶ。
	13週	物質量と質量・数・体積の関係	物質はたくさんの粒子の集合体であるが、モルという単位で表すことによって質量や体積が扱いやすくなることを学習する。
	14週	溶液の濃度 【演習】物質量	溶液の濃度の表し方について学習し、実際に溶液の調整ができるようにする。また、量的関係に関する演習をする。
	15週	期末試験	結合の種類とそれによる性質の違いについて問う。また、物質の量をいろいろな単位で表すことができるかどうかを確認する。
	16週	成績評価・確認	期末試験の成績確認 授業評価アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高専専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	理科 I B	
科目基礎情報							
科目番号	0036			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	化学基礎(実教出版), フォローアップ化学基礎(数研出版), ベストフィット化学基礎(実教出版), フォトサイエンス化学図録(数研出版)						
担当教員	寺崎 由紀子						
到達目標							
1. 物質量について理解し, 化学反応式が書ける。また、物質量と化学反応式の関係について理解し, 基本的な問題が解ける。 2. 酸・塩基の定義、pHについて基本的事項、中和のときの量的な関係を理解し, 基本的な問題を解くことができる。 3. 酸化・還元の定義を説明することができ、酸化剤・還元剤のはたらきについて理解できる。また、酸化還元反応について理解し, 基本的な問題を解くことができる。酸化還元反応の応用である電池について, 基本的事項を理解している。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
物質量と化学反応式		いろいろな化学反応式が書ける 物質量と化学反応式の関係について理解し, 少し複雑な問題が解ける		基本的な反応の化学反応式が書ける 物質量と化学反応式の関係について理解し, 基本的な問題が解ける		化学反応式が書けない 物質量と化学反応式の関係について理解していない	
酸・塩基		酸・塩基の定義を理解し, 説明することができる pHについて理解し, pHを求めることができる 中和のときの量的関係を理解し, 応用的な問題を解くことができる 塩について理解している。		酸・塩基の定義を理解している pHについて基本的事項を理解している 中和のときの量的な関係を理解し, 基本的な問題を解くことができる		酸・塩基の定義が説明できない pHについて理解していない 中和のときの量的関係を理解していない	
酸化・還元		化学反応の多くが酸化還元反応であることを理解している。 酸化剤と還元剤のはたらきについて, 半反応式を用いて説明することができる。 酸化還元反応の量的関係についての問題を解くことができる。 酸化還元反応の応用である電池について, 基本的事項を理解し, 量的な関係についての問題を解くことができる。		酸化・還元の定義を説明することができる 酸化剤・還元剤のはたらきについて理解している 酸化還元反応について理解し, 基本的な問題を解くことができる また, 酸化還元反応の応用である電池について, 基本的事項を理解している。		酸化・還元の定義を説明できない 酸化剤・還元剤が何であるかを理解していない 電池の仕組みについて, 基本的事項を理解していない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	マクロ的な立場から見た化学反応が微視的な分子やイオンの変化であることや, その量的な関係を捉えるために基本的事項を学習する。また, 基本的な化学反応である中和反応, 酸化・還元反応について, 概念や法則などを学び, 量的なとらえ方もできるようにする。						
授業の進め方・方法	教員単独による講義, 演習, 実験を行う。 学生の理解度により, 授業計画を変更することがある。 授業外学習・事前: 授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後: 復習を兼ねて課題に取り組むこと。						
注意点	内容の定着のため, 小テスト, 課題(宿題)などを課す。これらは提出物点として評価する。 実験や視聴覚教材を取り入れることがある。 評価が50点に満たない者は, 願い出により追認試験を受けることができる。 追認試験を受けるにあたって課題を課すことがある。 課題への取り組みが教員の求める水準に到達していない場合は追認試験の受験を認めない。 追認試験の結果, 単位の修得が認められた者にあつては, その評価を50点とする。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
必修							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	物質量と体積の関係 溶液の濃度		物質の量を物質量という単位で表したときの体積との関係を学ぶ。 溶液の濃度の表し方について学習し, 実際に溶液の調整ができるようにする。		
		2週	化学反応式・イオン反応式 化学反応式の表す意味		様々な化学反応を式で表すことができるようになるための基礎を学ぶ。また, 化学反応式は反応を表すだけでなく, 反応の量的な関係も表していることを学習する。		
		3週	化学反応の量的関係		化学反応によって変化する物質の質量や体積を測定値と化学反応式から求め, 反応の量的関係を習得する。 また, 演習を行う。		
		4週	酸・塩基の基本事項		酸・塩基の定義, 強弱, 価数と電離度について学ぶ。		
		5週	水素イオン濃度 pH		酸・塩基の度合いを測る尺度としてのpHの求め方について学ぶ。また, 身近な物質のpHがどれくらいかを知る。		
		6週	中和 中和滴定		中和反応と, 中和滴定の実験の仕方・計算について学習する。		
		7週	【実験】中和滴定		中和滴定の実験を行い, 溶液の濃度を求める。また, 器具の使い方, 薬品の取り扱い方も習得する。		

		8週	塩 加水分解	中和によって生じる塩の種類と、塩を加水分解したときの反応について学ぶ。
	4thQ	9週	中間試験	化学反応と量的関係について、また、酸・塩基に関する事項について理解できているかを問う。
		10週	中間試験の解答	中間試験の答案を返却し、解答・解説することで、今までの復習と理解できていなかったことを確認する。
		11週	酸化と還元 酸化数と酸化・還元	化学変化の主反応である酸化・還元反応の定義を学ぶ。その後、酸化・還元反応を知る上で有効な酸化数の求め方を学習する。また、酸化数の変化によって、酸化・還元反応がわかることを学ぶ。
		12週	酸化剤・還元剤	酸化剤・還元剤について学習する。また、酸化還元反応の量的関係を学ぶ。
		13週	金属のイオン化傾向	金属のイオン化傾向の違いによって反応の仕方が異なることを学ぶ。
		14週	電池	基本的な電池のしくみを学び、電池は酸化還元反応を利用していることを学習する。
		15週	期末試験	さまざまな酸化還元反応について、その現象と量的な関係が理解できているかどうかを問う。
		16週	成績評価・確認	期末試験の成績確認 授業評価アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100	
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	データサイエンス I	
科目基礎情報							
科目番号	0007			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科			対象学年	1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員		萩原 信吾,宮崎 衣澄					
到達目標							
数理データサイエンス・AI, 情報リテラシー, セキュリティ等を学修し, 今後の情報化社会での日常生活や仕事等の場面で活用することができる基礎的素養を身につけること. 社会情勢や社会での実例学ぶことにより, 人間中心の適切な判断ができ, 学修した知識やスキル等を説明, 活用できるようになること. (1) 数理データサイエンス・AIと社会の関わり (2) 情報リテラシー (3) セキュリティ (4) オフィススイート活用							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1 (数理データサイエンス・AIと社会の関わり)	数理データサイエンス・AIが社会変化および自らの生活に密接に結びつき, 広範にわたる課題解決に有用であることを実例を挙げて詳細に説明できる.		数理データサイエンス・AIが社会変化および自らの生活に密接に結びつき, 広範にわたる課題解決に有用であることを説明できる.		数理データサイエンス・AIが社会変化および自らの生活に密接に結びつき, 広範にわたる課題解決に有用であることを説明できない.		
評価項目2 (情報リテラシー)	コンピュータやネットワークについての基礎技術およびその役割を理解し, 詳細を説明できる.		コンピュータやネットワークについての基礎技術およびその役割を説明できる.		コンピュータやネットワークについての基礎技術およびその役割を説明できない.		
評価項目3 (セキュリティ)	セキュリティの重要性を理解し, 基礎技術について詳細に説明できる.		セキュリティの重要性, 基礎技術について説明できる.		セキュリティの重要性, 基礎技術について説明できない.		
評価項目4 (オフィススイート活用)	プレゼンテーションソフトを自在に使用することができる.		プレゼンテーションソフトを使用することができる.		プレゼンテーションソフトを使用することができない.		
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 1							
教育方法等							
概要	「データサイエンスⅠ」「データサイエンスⅡ」を通して, 文理問わず高専生が学修すべき情報技術に関するリテラシー, 数理データサイエンス・AIやセキュリティを学ぶ. 知識だけではなく, 社会における重要性を実例を通して学んだり, 実データを用いた演習を実践することで, 現実社会の課題発見・解決力と適切な活用法の修得のための基礎素養を身につける.						
授業の進め方・方法	講義および実データを用いた演習を中心に授業を進める. なお事前に行う準備学習として, 以下の前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと. (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておくこと (授業外学習・事後) 授業内容の復習を行うこと 学修した知識の社会における重要性や利活用を学ぶ際には, 自らの考え等をまとめ, 他者と議論するため, グループワーク等を実施する.						
注意点	<評価> レポート、試験等を総合的に評価する。単位認定には50点以上の評価が必要である。 <追認試験> 評価が50点に満たない者は, 願い出により追認のための課題を受けることができる。追認課題の結果, 単位の修得が認められた者にあつては, その評価を50点とする。 <授業計画> 授業計画は, 学生の理解度等に応じて変更する場合がある。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 情報システム利用		授業の進め方を理解できる. 情報システム利用の設定ができる.		
		2週	情報システム設定		パソコンやネットワークの設定ができる.		
		3週	社会情勢		情報化社会での数理データサイエンス・AIの学修の重要性について理解できる.		
		4週	数理データサイエンス・AIと社会		数理データサイエンス・AIと社会の変化の関わりについて理解できる.		
		5週	数理データサイエンス・AIの活用技術、ビジネスの関係(実社会での活用例)		数理データサイエンス・AIを実社会で活用する際の基礎技術について理解できる.またビジネスとの関わりを学び, 実社会での活用について理解できる.		
		6週	情報リテラシー(1) - フローチャート, アルゴリズム -		フローチャートやアルゴリズムについて理解できる.		
		7週	情報リテラシー(2) - コンピュータの動作原理 -		コンピュータの動作原理, 構成, ハードウェアとソフトウェアの役割を理解できる. コンピュータの情報表現について理解できる.		
		8週	情報モラルとセキュリティ(1) - 情報の扱い, ポリシー, マナー -		セキュリティの重要性や情報の取り扱い, 規則やポリシーを理解できる. インターネット利用の危険性やマナーを理解できる.		

2ndQ	9週	情報モラルとセキュリティ(2) - サイバー攻撃, セキュリティ技術, マネジメント -	サイバー攻撃と防御技術を学び, セキュリティの要素技術について理解できる. リスク管理やマネジメント法について理解できる.
	10週	情報リテラシー(3) - ネットワーク基礎 -	情報ネットワークの役割, 構成や仕組みについて理解できる.
	11週	情報リテラシー(4) - 法と情報化社会 -	情報に関わる基本的な法律に関して理解ができる。
	12週	情報リテラシー(5) - 法と情報化社会 -	情報に関わる基本的な法律に関して理解ができる。
	13週	Office Suite活用(1)	Office Suiteの実習を通して活用法を理解できる.
	14週	Office Suite活用(2)	Office Suiteの実習を通して活用法を理解できる.
	15週	Office Suite活用(3)	Office Suiteの実習を通して活用法を理解できる.
	16週	授業評価アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	課題	発表	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	60	0	0	0	40	100
基礎的能力	0	30	0	0	0	20	50
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	30	0	0	0	20	50

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	データサイエンスⅡ	
科目基礎情報							
科目番号	0021			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	萩原 信吾						
到達目標							
数理データサイエンス・AI, 情報リテラシー, セキュリティ等を学修し, 今後の情報化社会での日常生活や仕事等の場面で活用することができる基礎的素養を身につけること. 社会情勢や社会での実例学ぶことにより, 人間中心の適切な判断ができ, 学修した知識やスキル等を説明, 活用できるようになること. 自らの専門学科以外の学生との協同学習により, 多角的な視点で物事を考える力を身につけること. (1) データの取り扱い (2) データの分析 (3) 企業活動と数理データサイエンス・AIとの関わり							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 (データの取り扱い)	データを適切に扱うことができ, 利用法の詳細について説明できる.			データを適切に扱うことができる.		データを適切に扱うことができない.	
評価項目2 (データの分析)	実データを適切に分析でき, 結果を正しく説明できる.			実データを分析し, 結果を説明できる.		実データを分析できず, 結果を説明できない.	
評価項目3 (企業活動と数理データサイエンス・AIとの関わり)	担当企業を十分に調査し, 適切な取材に基づきレポートをまとめ, 企業活動と数理データサイエンス・AIとの関わりについて多角的な視点から充分に考察できる.			担当企業を調査し, 取材に基づきレポートをまとめ, 企業活動と数理データサイエンス・AIとの関わりについて多角的な視点から考察できる.		担当企業を調査し, 取材に基づきレポートをまとめることができない. 企業活動と数理データサイエンス・AIとの関わりについて考察できない.	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	「データサイエンスⅠ」「データサイエンスⅡ」を通して, 文理問わず高専生が学修すべき情報技術に関するリテラシー, 数理データサイエンス・AIやセキュリティを学ぶ. 知識だけではなく, 社会における重要性を実例を通して学んだり, 実データを用いた演習を実践することで, 現実社会の課題発見・解決力と適切な活用法の修得のための基礎素養を身につける.						
授業の進め方・方法	講義および実データを用いた演習を中心に授業を進める. なお事前に行う準備学習として, 以下の前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと. (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておくこと (授業外学習・事後) 授業内容の復習を行うこと 産学連携教育では, できるだけ全学科の学生からなるチームを構成し, チームで担当企業を調査, 取材するとともに, データやAI活用との関わりをチームで議論し, レポートとしてまとめる.						
注意点	<評価> 課題を総合的に評価する. 単位認定には50点以上の評価が必要である. <追認試験> 評価が50点に満たない者は, 願い出により追認のための課題を受けることができる. 追認課題の結果, 単位の修得が認められた者にあつては, その評価を50点とする. <授業計画> 授業計画は, 学生の理解度等に応じて変更する場合がある.						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	データサイエンス(1)		具体的なプログラミング言語の変数が理解できる.		
		2週	データサイエンス(2)		具体的なプログラミング言語の関数ができる.		
		3週	データサイエンス(3)		具体的なプログラミング言語の配列が理解できる.		
		4週	データサイエンス(4)		具体的なプログラミング言語の条件分岐が理解できる.		
		5週	データサイエンス(5)		データを適切に取得し, その取り扱い方法, 留意事項について理解できる.		
		6週	データサイエンス(6)		データの種類を理解し, 適切なグラフを作成できる. また度数分布, ヒストグラムについて理解できる.		
		7週	データサイエンス(7)		実データの演習を通して, データのソート方法について理解でき, データの代表値(平均値, 中央値, 最頻値)について理解できる.		
		8週	データサイエンス(8)		実データの演習を通して, データのばらつき(分散, 標準偏差)について理解できる.		
	4thQ	9週	データサイエンス(9)		実データの演習を通して, 箱ひげ図, 散布図について理解できる.		
		10週	データサイエンス(10)		実データの演習を通して, 最小二乗法について理解できる.		
		11週	データサイエンス(11)		実データの演習を通して, 回帰直線, 相関, 相関係数, 決定係数について理解できる.		
		12週	データサイエンス(12)		実データの演習を通して, データの分析や因果関係について理解できる.		

		13週	Teams活用 & 産学連携教育 (1)	Teamsの活用法を理解できる. 企業調査活動の進め方, 留意点を理解できる.
		14週	Teams活用 & 産学連携教育 (2)	企業調査を進め, Teamsを活用し, 打ち合わせを実施する.
		15週	Teams活用 & 産学連携教育 (3)	企業に取材し, その成果およびデータやAI活用との関わりをレポートとしてまとめる.
		16週	授業評価アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	60	0	0	0	40	100	
基礎的能力	0	30	0	0	0	20	50	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	30	0	0	0	20	50	

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度（2024年度）		授業科目	商学概論Ⅰ	
科目基礎情報							
科目番号	0029		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年		1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	青山矢一（ほか編）（2020）『ビジネス基礎』実教出版.						
担当教員	田嶋 雄太						
到達目標							
現代社会における経済活動と流通のあり方について、体系的な理解を深める。 身近なモノやサービス、流通について分析し、これに関する自分の見解を述べられるようになる。 「社会に出て働くこと」の価値を自分の言葉で説明でき、他者と意見交換できるようになる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	経済活動と流通のあり方について、幅広く説明できる。		経済活動と流通のあり方について、その一部を説明できる。		経済活動と流通のあり方について、説明できない。		
評価項目2	身近なモノやサービス、流通について、自分の見解を十分に述べられる。		身近なモノやサービス、流通について、不十分ながらも自分の見解を述べられる。		身近なモノやサービス、流通について、自分の見解を述べられない。		
評価項目3	「社会に出て働くこと」の価値を自分の言葉で説明でき、他者と意見交換できるようになる。		「社会に出て働くこと」の価値を、拙いながらも自分の言葉で説明できている。他者の意見にも積極的に耳を傾けられている。		「社会に出て働くこと」の価値の理解が不十分で、他者の意見も解釈できていない。		
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 1							
教育方法等							
概要	本講の目的は、現代社会におけるビジネスのあり方を体系的に理解することにある。産業や消費生活の変化に伴う商品の多様化などについて考察する。また、身の回りにあるモノやサービス、流通をビジネス視点で俯瞰する能力を得ることも期待する。 なお、この科目は、民間企業で実務経験があり、様々な業界の企業と関わっていた教員が、その経験を活かし、経済を構成する「企業・家計・政府」の幅広い観点から、講義形式で授業を行うものである。						
授業の進め方・方法	講義形式で行うが、ビジネス事例研究などのアクティブラーニングも一部実施する。 《事前学習・予習》 教科書等で次の授業範囲の内容を確認しておく。 《事後学習・復習》 授業中に配布したレジュメや教科書等で学んだ内容を再度確認する。また、隔週で授業後レポート課題に取り組む。						
注意点	本講義では、受講生の積極的な発言や意見交換を期待する。 なお、前期末の最終的な成績評価は、前期中間試験の得点を50%、前期末試験の得点を50%で計算し、その合計値を最終評価とする。 最終評価が50点以上で単位を認定する。評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にとっては、その評価を50点とする。評価方法と評価基準は、本試験に準じる。						
授業の属性・履修上の区分							
☑ アクティブラーニング		☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応		☑ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス、商業の学習とビジネス		「商学概論Ⅰ」の目的、日常生活とビジネスとの関わりについて、理解できる。		
		2週	経済と流通の基礎（1）		経済の仕組みとビジネスについて、理解できる。		
		3週	経済と流通の基礎（2）		経済活動と流通の役割について、理解できる。		
		4週	さまざまなビジネス（1）		主なビジネスの種類について、理解できる。		
		5週	さまざまなビジネス（2）		小売業の役割と種類について、理解できる。		
		6週	さまざまなビジネス（3）		卸売業の役割と種類について、理解できる。		
		7週	さまざまなビジネス（4）		物流業の役割と種類について、理解できる。		
		8週	ビジネス事例研究		経済の仕組みとビジネスについて、具体的事例に沿って理解できる。		
	2ndQ	9週	中間試験		第1回～第8回の学習内容の定着度を確認する。		
		10週	答案返却		中間試験の結果を確認し、理解度を向上させる。		
		11週	さまざまなビジネス（5）		金融業の役割と種類について、理解できる。		
		12週	さまざまなビジネス（6）		情報通信業の役割と種類について、理解できる。		
		13週	ビジネスとコミュニケーション		ビジネスシーンにおけるコミュニケーションの役割について、理解できる。		
		14週	情報の入手と活用		情報の適切な入手方法と活用の仕方について、理解できる。		
		15週	期末試験		第11～14回の学習内容		
		16週	成績確認		答案返却、解説		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							

	試験	レポート		合計
総合評価割合	70	30	0	100
基礎的能力	40	15	0	55
専門的能力	20	10	0	30
分野横断的能力	10	5	0	15

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度（2024年度）		授業科目	商学概論Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0030		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年		1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	青山矢一（ほか編）（2020）『ビジネス基礎』実教出版。						
担当教員	田嶋 雄太						
到達目標							
現代社会における経済活動と流通のあり方について、体系的な理解を深める。 身近なモノやサービス、流通について分析し、これに関する自分の見解を述べられるようになる。 「社会に出て働くこと」の価値を自分の言葉で説明でき、他者と意見交換できるようになる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	経済活動と流通のあり方について、幅広く説明できる。		経済活動と流通のあり方について、その一部を説明できる。		経済活動と流通のあり方について、説明できない。		
評価項目2	身近なモノやサービス、流通について、自分の見解を十分に述べられる。		身近なモノやサービス、流通について、不十分ながらも自分の見解を述べられる。		身近なモノやサービス、流通について、自分の見解を述べられない。		
評価項目3	「社会に出て働くこと」の価値を自分の言葉で説明でき、他者と意見交換できるようになる。		「社会に出て働くこと」の価値を、拙いながらも自分の言葉で説明できている。他者の意見にも積極的に耳を傾けられている。		「社会に出て働くこと」の価値の理解が不十分で、他者の意見も解釈できていない。		
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 1							
教育方法等							
概要	本講の目的は、現代社会におけるビジネスのあり方を体系的に理解することにある。産業や消費生活の変化に伴う商品の多様化などについて考察する。また、身の回りにあるモノやサービス、流通をビジネス視点で俯瞰する能力を得ることも期待する。 なお、この科目は、民間企業で実務経験があり、様々な業界の企業と関わっていた教員が、その経験を活かし、経済を構成する「企業・家計・政府」の幅広い観点から、講義形式で授業を行うものである。						
授業の進め方・方法	講義形式で行うが、ビジネス事例研究などのアクティブラーニングも一部実施する。 《事前学習・予習》 教科書等で次回の授業範囲の内容を確認しておく。 《事後学習・復習》 授業中に配布したレジュメや教科書等で学んだ内容を再度確認する。また、隔週で授業後レポート課題に取り組む。						
注意点	本講義では、受講生の積極的な発言や意見交換を期待する。 なお、前期末の最終的な成績評価は、前期中間試験の得点を50%、前期末試験の得点を50%で計算し、その合計値を最終評価とする。 最終評価が50点以上で単位を認定する。評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にとっては、その評価を50点とする。評価方法と評価基準は、本試験に準じる。						
授業の属性・履修上の区分							
☑ アクティブラーニング		☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応		☑ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、商業の学習とビジネス		「商学概論Ⅰ」の目的、日常生活とビジネスとの関わりについて、理解できる。		
		2週	経済と流通の基礎（1）		経済の仕組みとビジネスについて、理解できる。		
		3週	経済と流通の基礎（2）		経済活動と流通の役割について、理解できる。		
		4週	さまざまなビジネス（1）		主なビジネスの種類について、理解できる。		
		5週	さまざまなビジネス（2）		小売業の役割と種類について、理解できる。		
		6週	さまざまなビジネス（3）		卸売業の役割と種類について、理解できる。		
		7週	さまざまなビジネス（4）		物流業の役割と種類について、理解できる。		
		8週	ビジネス事例研究		経済の仕組みとビジネスについて、具体的事例に沿って理解できる。		
	4thQ	9週	中間試験		第1回～第8回の学習内容の定着度を確認する。		
		10週	答案返却		中間試験の結果を確認し、理解度を向上させる。		
		11週	さまざまなビジネス（5）		金融業の役割と種類について、理解できる。		
		12週	さまざまなビジネス（6）		情報通信業の役割と種類について、理解できる。		
		13週	ビジネスとコミュニケーション		ビジネスシーンにおけるコミュニケーションの役割について、理解できる。		
		14週	情報の入手と活用		情報の適切な入手方法と活用の仕方について、理解できる。		
		15週	期末試験		第11～14回の学習内容		
		16週	成績確認		答案返却、解説		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							

	試験	レポート		合計
総合評価割合	70	30	0	100
基礎的能力	40	15	0	55
専門的能力	20	10	0	30
分野横断的能力	10	5	0	15

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	情報基礎 I	
科目基礎情報							
科目番号	0031			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科			対象学年	1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	30時間でマスターEXCEL, 30時間でマスターWORD						
担当教員	萩原 信吾						
到達目標							
現代のIT活用能力として、EXCELやWORDの利用は必須ともいえる。WORDの活用については、タイピング、書式の設定のような基本的な機能の利活用などがあげられる。またEXCELについては、EXCELの基本機能にくわえ、関数の応用的な記述能力が求められる。本科目においてはこれら2つのアプリケーションにおいて、基本的な利用が可能な能力の習得を目標とする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
タイピング能力	キーボードを見ずに、日本語・英語について円滑なタイピングができる。		キーボードを見るが、日本語について円滑なタイピングができる。		日本語・英語ともにキーボードを見て、かつ円滑なタイピングができない。		
WORDの活用能力	WORDにおいて応用的な書式設定や、操作について理解し、WORDの概念構造を理科している。		WORDにおいて基本的な書式設定や、操作ができる。		WORDにおいて、基本的な書式設定や、操作ができない。		
EXCELの活用能力	EXCELにおいて応用的な機能の利用や、関数の利用ができる。		EXCELにおいて基本的な機能の利用や、関数の利用ができる。		EXCELにおいて基本的な機能の利用や、関数の利用ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 1							
教育方法等							
概要	学習目標(授業の狙い) [目標] エンドユーザーとして有効なコンピュータの基礎技能を身につける。 [概要] (1) タッチタイピングを習得する。 (2) WORDの基本機能を習得する。 (3) EXCELの基本機能を習得する。						
授業の進め方・方法	教員単独による講義を実施する。 なお事前に行う準備学習として、以下の前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておくこと (授業外学習・事後) 授業内容の復習を行うこと						
注意点	各学生の評価は、期末試験および課題の点数で決定する。評価が50点以上で単位を認める。評価が50点に満たない場合は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた学生にあっては、その評価を50点とする。追認試験の評価方法および評価基準は本試験に準じる。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		授業計画、到達目標、評価方法が理解できる。		
		2週	タッチタイピング (1)		ホームポジションを習得する。		
		3週	タッチタイピング (2)		人差し指でタッチタイピングができる。		
		4週	タッチタイピング (3)		人差し指と中指でタッチタイピングができる。		
		5週	タッチタイピング (4)		人差し指、中指、薬指でタッチタイピングができる。		
		6週	タッチタイピング (5)		すべての指を使ってタッチタイピングができる。		
		7週	タッチタイピング (6)		日本語・英語でタッチタイピングができる。		
		8週	タッチタイピング (7)		タッチタイピングの習得を確認する。		
	2ndQ	9週	WORDの活用 (1)		WORDのデータについて理解する。		
		10週	WORDの活用 (2)		WORDの書式について理解する。		
		11週	WORDの活用 (3)		WORDの基本機能について理解する。		
		12週	EXCELの活用 (1)		EXCELの基本機能について理解する。		
		13週	EXCELの活用 (2)		EXCELの関数について理解する。		
		14週	EXCELの活用 (3)		EXCELの条件分岐について理解する。		
		15週	期末試験		講義した内容について理解度を測るために期末試験を行う。		
		16週	答案返却、解説等		本科目の成績について確認する。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	情報基礎Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0032			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	ITパスポート合格教本						
担当教員	萩原 信吾						
到達目標							
1. 基本的なアルゴリズムについて理解し、十分に説明することができる。 2. 一般的な計算機と情報理論について理解し、十分に説明することができる。 3. 暗号化技術について理解し、十分に説明することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	基本的なアルゴリズムについて理解し、十分に説明ができる。		基本的なアルゴリズムについておおよ理解し、説明ができる。		基本的なアルゴリズムについて理解し、説明ができない。		
評価項目2	基本的な計算機の仕組みや情報理論について理解し、十分に説明ができる。		基本的な計算機の仕組みや情報理論についておおよ理解し、説明ができる。		基本的な計算機の仕組みや情報理論について理解し、説明ができない。		
評価項目3	暗号化技術について理解し、十分に説明ができる。		暗号化技術についておおよ理解し、説明ができる。		暗号化技術について理解し、説明ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 1							
教育方法等							
概要	現在どのような業種・職種でもITと経営全般に関する総合的知識が不可欠である。事務系・技術系、そして文系・理系を問わず、ITの基礎知識を持ち合わせていなければ、企業の戦力にはならない。そこで基本的なIT知識を学習する。						
授業の進め方・方法	エンドユーザーとして有効なコンピュータの基礎知識を身につける。 なお事前に行う準備学習として、以下の前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 （授業外学習・事前）授業内容を予習しておくこと （授業外学習・事後）授業内容の復習を行うこと 国家試験である情報処理技術者試験のITパスポートに対応する。						
注意点	評価が50点に満たないものは願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められたものにあっては、その評価を50点とする。評価方法及び評価基準は本試験と同じとする。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		評価方法などについて説明を行う。またシラバスを用いて授業の内容を説明する。		
		2週	システム開発手法		ソフトウェア開発における管理手法を説明できる。		
		3週	2進数		2進数の計算ができる。		
		4週	集合と論理演算		集合演算と論理演算の関係について理解し、説明ができる。		
		5週	集合と論理演算		集合演算と論理演算の関係について理解し、説明ができる。		
		6週	確率の計算		簡単な確率の計算ができる。		
		7週	確率の計算		簡単な確率の計算ができる。		
		8週	データ構造		ソフトウェアにおける基本的なデータ構造について理解し、説明ができる。		
	4thQ	9週	アルゴリズム		ソフトウェアにおける基本的なアルゴリズムについて理解し、説明ができる。		
		10週	5大機能		コンピューターシステムにおける基本的なハードウェア構造について理解し、説明ができる。		
		11週	OSとファイルシステム		OSの役割と、ファイルシステムについて理解し、説明ができる。		
		12週	企業におけるシステム管理		企業におけるコンピューターシステムと家庭のコンピューターシステムについて違いを理解し、説明ができる。		
		13週	暗号化技術		基本的な暗号化技術について理解ができる。		
		14週	暗号化技術		認証局など実際に暗号化技術が利用されているものを理解し、その構造が説明できる。		
		15週	期末試験		期末試験		
		16週	期末試験の解答		試験返却と成績の確認		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験		課題		合計		
総合評価割合	80		20		100		

基礎的能力	50	10	60
專門的能力	30	10	40
分野横断的能力	0	0	0